

車載型デジタル簡易無線機 IC-D6005N



この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要について

- ◎本製品同士(2台)をIPネットワークで接続することで、地下と地上など、無線機同士で直接無線通信できない相手と通信できます。
- ◎内線通話機能により、地下と地上などに設置した本製品同士がIPネットワークで内線通話できます。
- ◎IP54(防塵形と防まつ形)^{★2}の性能に対応できるように設計されています。
- ◎付属のコマンドマイク(HM-206)についても、IP54の性能があります。
- ◎チャンネル番号音声案内機能により、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎通話チャンネル番号の代わりに、漢字、英数字、記号、外字^{★3}を使用した名称で表示できます。^{★1}
- ◎個別呼び出し機能や緊急呼び出し機能^{★1}に対応しています。
- ◎付属コマンドマイクのGPS機能^{★1}を設定することで、自局の位置情報を受信(測位)して、送信できます。
- ◎本製品と無線通信できる弊社製無線機(移動機)として、IC-D50、IC-D60、IC-D5005、IC-D6005が使用できます。(2015年7月現在)
- ◎ネットワーク機能^{★1}の設定を「OFF」に変更すると、本製品を移動機として使用できます。
- ◎卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
- ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★4}

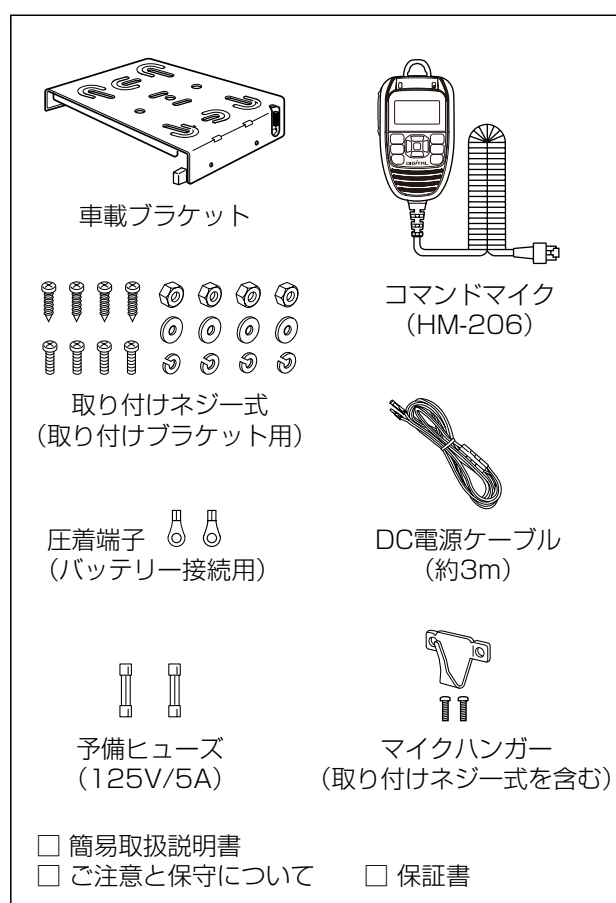
★1 お買い上げの販売店で設定が必要な機能です。

★2 「IP表記について」(Piii)をご覧ください。

★3 HM-206(コマンドマイク)を接続しているときは、外字を表示できません。

★4 AMBE+2™方式を採用している機種に対応しています。

付属品について



取扱説明書の内容について

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

チャンネルについて

◎CH1～CH14、CH16～CH30 :通話用チャンネル

◎CH15(呼出CH)*¹ :呼出用チャンネル

◎CHS1～CHS5*² :上空用チャンネル

*¹ ネットワーク機能の設定が「ON」のときは、呼出CHは使用できません。

ネットワーク機能の設定が「OFF」のときで、一時的な呼び出しをするときに使用します。

多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。

*² 上空用チャンネルでは送信できません。

上空用チャンネルの設定は販売店にご依頼ください。

取り扱い上のご注意

◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。

◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。

磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。

子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE (Advanced Multi-Band Excitation) 方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

電波法上のご注意

◎無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)

◎登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。再登録の申請は、有効期間満了の3カ月前から1カ月前のあいだに手続きをしてください。

◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。分解や改造をしないでください。

◎本製品でご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。

技術基準適合証明(工事設計認証)で登録されていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられることとなりますので、ご注意ください。

ご使用いただけるアンテナについては、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。

上空での運用はできませんのでご注意ください。

無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

防塵/防水性能について

マイクロホンを無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンや外部スピーカーを付けたり、はずしたりしたとき

◎コマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカーマイク(HM-204)が接続されていない、または正しく接続されていない

◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき

◎本製品を分解、または改造したとき

◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき

◎水や海水につけたとき

◎-20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

別売品の使用による防塵/防水性能について

防水スピーカーマイク(HM-204)、コマンドマイク(HM-206 #02)を無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品(※10章)については、防塵/防水構造になっていないので、ご注意ください。

はじめに

IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を[X]で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのち取り出して、無線機として機能すること

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター内蔵の電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

【インバーター内蔵のおもな電子機器】

- ◎LED照明器具
- ◎電磁調理器
- ◎自動車に搭載された電子機器
- ◎太陽光発電装置

もくじ

はじめに	i	8.そのほかの機能について	8-1
本製品の概要について	i	■ ロック機能	8-1
登録商標/著作権について	i	■ 受信専用機能	8-1
付属品について	i	■ モニター機能	8-1
取扱説明書の内容について	i	■ 送受信機で通話内容を聞くには	8-1
チャンネルについて	ii	■ 内線通話機能	8-2
取り扱い上のご注意	ii	■ ポケットビープ機能	8-2
放熱について	ii	■ 呼び出しメロディー機能	8-3
音声圧縮(符号化)方式について	ii	■ 着信表示	8-3
電波法上のご注意	ii	■ 受信電波強度通知機能	8-3
防塵/防水性能について	ii	■ ショートメッセージ機能	8-4
別売品の使用による防塵/防水性能について	ii	■ 発着信履歴機能	8-7
IP表記について	iii	■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	8-9
電磁ノイズについて	iii	■ GPS機能	8-11
1.各部の名称と機能	1-1	■ ノイズキャンセル機能	8-12
■ 前面部(操作機側)	1-1	■ 送信出力の切り替え機能	8-12
■ 前面部(送受信機側)	1-3	9.各種機能の設定	9-1
■ 表示部(操作機側)	1-5	■ 設定一覧	9-1
■ 表示部(送受信機側)	1-7	■ 設定モードに移行するには	9-1
■ 後面部	1-8	■ 詳細設定モードに移行するには	9-2
2.無線機を起動するには	2-1	■ 設定のしかた	9-2
■ 通話するときのアドバイス	2-2	■ 設定項目について	9-3
3.遠隔制御システムでの通話方法	3-1	10.別売品とその使いかた	10-1
■ 「遠隔制御システム」について	3-1	■ 別売品についてのご注意	10-1
■ 移動機と通話するには	3-1	■ ホームページに掲載	10-1
4.エリア拡張システムでの通話方法	4-1	■ 別売品一覧表	10-1
■ 「エリア拡張システム」について	4-1	■ HM-204(防水スピーカーマイク)	10-1
■ 移動機同士が通話するには	4-2	■ AM-5(アーム型マイクロホン)	10-2
■ 操作機と移動機が通話するには	4-3	■ SM-28(デスクトップマイクロホン)	10-2
5.ユーザーコードによるグループ通話のしかた	5-1	■ OPC-2330(マイク分岐BOX)	10-3
■ ユーザーコードを設定して通話するには	5-1	11.保守について	11-1
■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには	5-2	■ 日常の保守と点検について	11-1
6.個別呼び出し機能による通話	6-1	■ 初期状態に戻す(リセットする)には	11-1
■ 呼び出しかたの種類について	6-1	■ ヒューズの交換について	11-1
■ 個別呼び出し機能を設定するには	6-2	■ 移動機として使用できる無線機について	11-1
■ 個別呼び出し機能で通話するには	6-4	■ 故障かな?と思ったら	11-2
7.盗聴防止の設定をするには	7-1	■ アフターサービスについて	11-3
■ 秘話機能を設定するには	7-1		
■ 秘話機能を使用して通話するには	7-2		

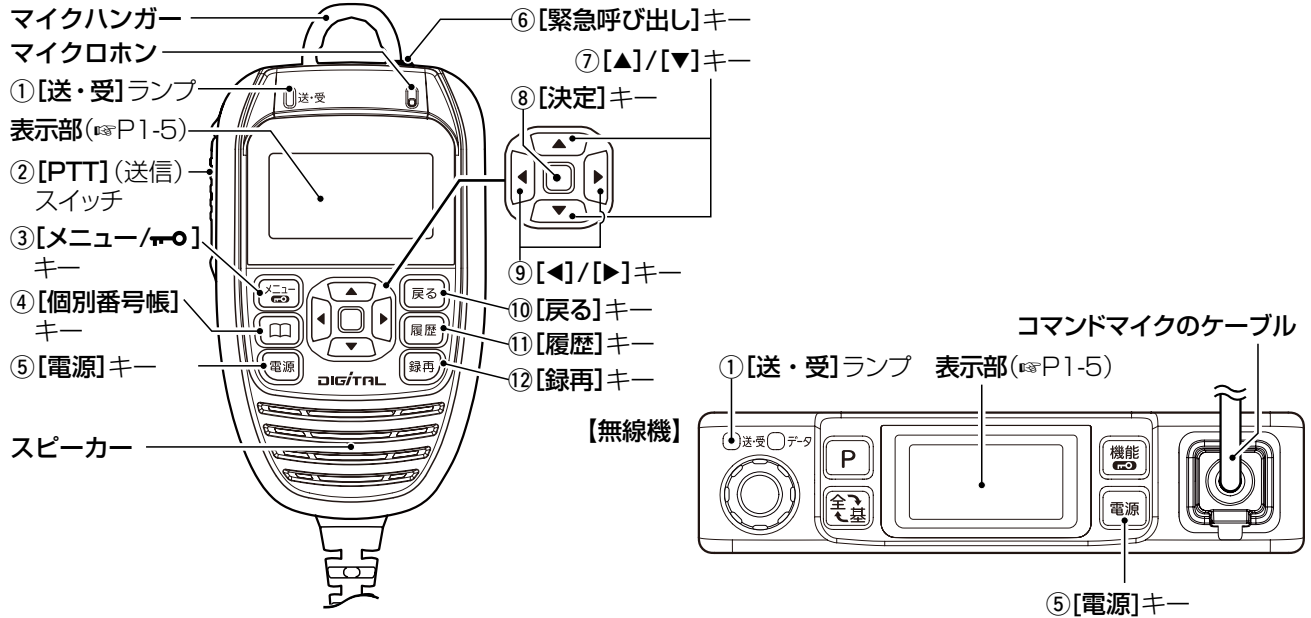
1

各部の名称と機能

■ 前面部(操作機側)

動作モードが「操作機」に設定された無線機の操作について説明します。

【コマンドマイク :HM-206】



★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

①	【送・受】ランプ 緑色に点灯: 受信中 赤色に点灯: 送信中 橙色に点滅: 着信時★
②	【PTT】(送信)スイッチ 押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。 ※内線通話機能動作中は、送受信機の相手に話しかけるときの、押しつづけます。(P8-2)
③	【メニュー/ON/OFF】キー ◎短く押すと、メニュー画面を表示します。 ◎長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。(P8-1)
④	【個別番号帳】キー ◎個別呼び出し機能が設定されている場合、押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。(P6-4) ◎個別番号、またはグループ番号の選択は、【▲】/【▼】キーで選択します。
⑤	【電源】キー 長く(約1秒)押すごとに、電源を「入」/「切」します。
⑥	【緊急呼び出し】キー★ 緊急呼び出し機能が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。(P8-10)

⑦	【▲】/【▼】キー 通話チャンネル番号、個別番号、グループ番号、発信履歴、着信履歴、ショートメッセージ★などを選択します。
⑧	【決定】キー 押すと、選択した内容を確定します。
⑨	【◀】/【▶】キー ◎押すと、音量が変わります。 ◎メニュー画面などで、1つ下の階層に進むときは【▶】キー、1つ上の階層に戻るときは【◀】キーを押します。
⑩	【戻る】キー ◎メニュー画面、着信/発信を表示する画面などで、短く押すと、1つ上の階層に戻ります。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。
⑪	【履歴】キー ◎短く押すごとに、着信/発信を表示する画面に切り替わります。 ◎ショートメッセージを発信、または受信した場合は、【▲】/【▼】キーで発信、または着信履歴を選択して、【▶】を押すと内容を確認できます。
⑫	【録再】キー 録音再生機能で使用するキーです。 ※ネットワーク機能が「ON」のときは、動作しません。

(P次ページにつづく)

1 各部の名称と機能

■ 前面部(操作機側)つづき

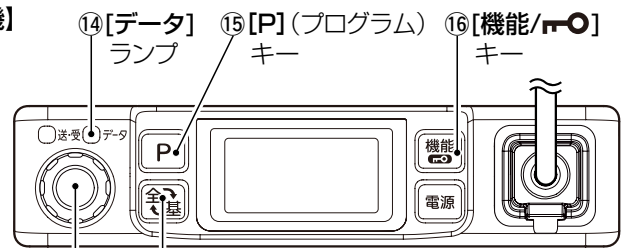
【コマンドマイク：HM-206】

後面部



⑬ノイズキャンセル機能用マイクロホン

【無線機】



⑬ツマミ ⑭【全〆基】キー

⑬	<p>ノイズキャンセル機能用マイクロホン 周囲のノイズを検出するために使用します。ノイズキャンセル機能が設定されているとき、このマイクロホンから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクロホンから入った周囲のノイズを打ち消します。設定されているときは、通話する音声に含まれる低音域のノイズの軽減に効果があります。</p>
⑭	<p>【データ】ランプ ◎操作機が遠隔制御システムの場合 消灯：内線通話機能が動作中のとき (P8-2) 点灯(橙色)：IPネットワークで送受信機と接続されたとき ◎操作機がエリア拡張システムの場合 消灯：操作機に送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる)とき、または内線通話機能(P8-2)が動作中のとき 点灯(橙色)：送受信機に送信権がある(送受信機に設定された無線機から電波を送信できる)とき</p>
⑮	<p>【P】(プログラム)キー 押しているあいだは、モニター機能が動作します。(P8-1) ※モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときに使用します。 ※モニター機能は、ロック機能(P8-1)動作中でも使用できます。 ※別売品のマイクロホン(HM-204、AM-5、SM-28)を接続している場合は、短く押すと、通話チャンネル表示に切り替わります。 ※【P】(プログラム)キーの動作を送信権の切り替え操作など、モニター以外の用途に割り当てる場合は、詳細設定モードで設定できます。</p>

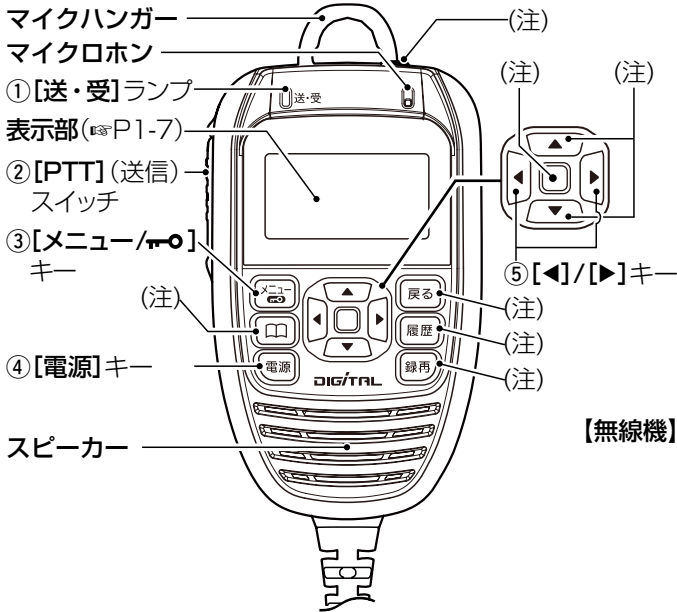
⑯	<p>【機能/〆〇】キー 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、動作しません。 別売品のHM-204、AM-5、SM-28が接続されているときは、下記の操作ができます。 ◎短く押してから、ツマミを回すと、通話チャンネルを変更できます。 ◎長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。</p>
⑰	<p>【全〆基】キー 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、動作しません。 別売品のHM-204、AM-5、SM-28が接続されているときは、下記の操作ができます。 ◎押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。 ※ツマミを回すと、個別番号、またはグループ番号を選択できます。 ◎通話後、短く押すと、強制的に終話します。</p>
⑱	<p>ツマミ ◎付属のコマンドマイク(HM-206)接続時 音量が変わります。 ◎別売品のHM-204、AM-5、SM-28接続時 ●音量が変わります。 ●【全〆基】キー、【機能/〆〇】キーを短く押してからツマミを回すと、通話チャンネル番号、個別番号、グループ番号を選択できます。</p>

1 各部の名称と機能

■ 前面部(送受信機側)

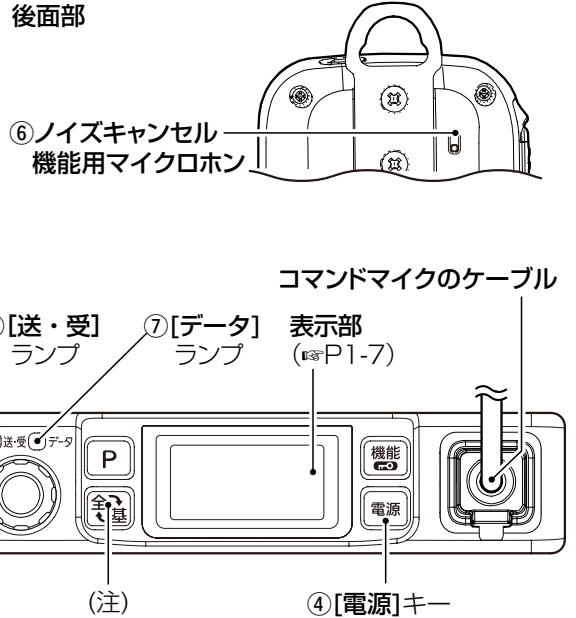
動作モードが「送受信機」に設定された無線機の操作について説明します。

【コマンドマイク : HM-206】



【コマンドマイク : HM-206】

後面部



(注)送受信機では操作できないキーです。

★印の操作は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

①	[送・受] ランプ 緑色に点灯: 受信中 赤色に点灯: 送信中 橙色に点滅: 着信時★
②	[PTT] (送信) スイッチ 内線通話機能動作中のときだけ、押し続けているあいだは、操作機の相手に内線できます。(P8-2)
③	[メニュー/電源] キー 長く押すごとに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。(P8-1)
④	[電源] キー 長く(約1秒)押すごとに、電源を「入」/「切」します。
⑤	[◀]/[▶] キー 押すと、音量が変わります。
⑥	ノイズキャンセル機能用マイクロホン 周囲のノイズを検出するために使用します。 ノイズキャンセル機能が送受信機に設定されているとき、このマイクロホンから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクロホンから入った周囲のノイズを打ち消します。 設定されているときは、内線通話する音声に含まれる低音域のノイズの軽減に効果があります。

⑦	[データ] ランプ ◎操作機が遠隔制御システムの場合 消灯 : 内線通話機能が動作中のとき (P8-2) 点灯(橙色) : IPネットワークで操作機と接続されたとき ◎操作機がエリア拡張システムの場合 消灯 : 操作機に送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる)とき、または内線通話機能(P8-2)が動作中のとき 点灯(橙色) : 送受信機に送信権がある(送受信機に設定された無線機から電波を送信できる)とき
---	--

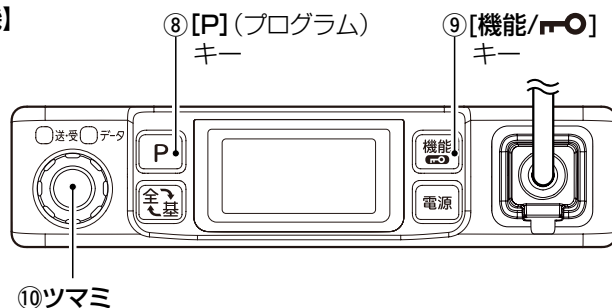
(P次ページにつづく)

1 各部の名称と機能

■ 前面部(送受信機側)つづき

(注)送受信機では操作できないキーです。

【無線機】



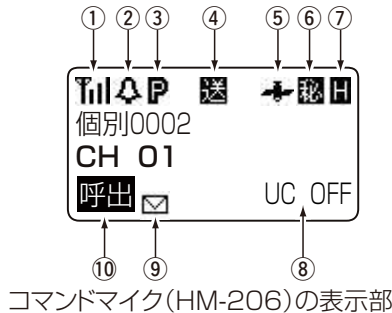
⑧	[P] (プログラム) キー 押しているあいだは、モニター機能が動作します。 (※P8-1)
	※モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときに使用します。 ※モニター機能は、ロック機能(※P8-1)動作中でも使用できます。 ※ネットワーク機能が「ON」のとき、[P] (プログラム) キーの動作をモニター以外の用途に割り当てている場合は、動作しません。

⑨	[機能/ON/OFF] キー 付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、動作しません。
	別売品のHM-204が接続されているときは、下記の操作ができます。 長く押しごとのに、ロック機能を「ON」/「OFF」します。
⑩	ツマミ 音量が変わります。

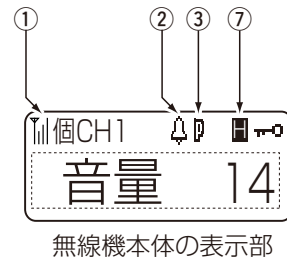
1 各部の名称と機能

■ 表示部(操作機側)

動作モードが「操作機」に設定された無線機と、その無線機に接続されたコマンドマイクの表示です。



コマンドマイク(HM-206)の表示部



無線機本体の表示部

★1 印の表示は、コマンドマイク(HM-206)と無線機本体の表示部に表示されます。

★2 印の表示は、お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

①	★1	送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる:「送」が表示されている)とき、操作機に接続されたアンテナで受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 弱 中 強 ※「」～「」は、「送」が表示されているときだけ表示されます。
②	★1	ポケットビープ機能が設定されているとき表示します。(P8-2) 呼び出しを受けると、点滅します。
③	★1	Pベル機能が設定されているときに表示します。(P9-3)
④		送信権がある(操作機に設定された無線機から電波が送信できる)ときに表示します。 ※「送」が表示されると同時に、「」～「」を表示します。
⑤	★2	コマンドマイク(HM-206)に内蔵されたGPSレシーバーの受信状態を表示します。 消灯:GPS機能を使用していないとき (P8-11) 点滅:自局の位置情報を受信(測位)中 表示:自局の位置情報の測位が完了

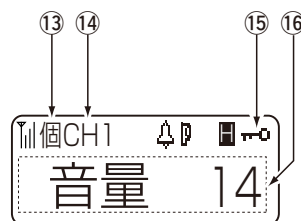
⑥		秘話機能が設定されているときに表示します。(P7-1) ※無線機本体の「CH」(14)表示(P1-6)が「CH」で表示(例:CH1)されます。
⑦	★1	各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定を表示します。5Wのときに表示します。
	★1	1Wのときに表示します。
⑧	★1	送信禁止チャンネルを選択したときに表示します。
	UC OFF	各通話チャンネルのユーザーコード設定を表示します。 OFF(000) :ユーザーコードなし 001～511 :ユーザーコードあり
⑨	★2	ショートメッセージを送信、または受信したときに表示します。(P8-5)
⑩		個別呼び出し機能で通話中に表示します。(P6-1) また、全体/グループ呼び出しで送信や着信したときにも表示します。
		個別/基地局呼び出しで送信したときに表示します。
		ショートメッセージ*2を受信したときや自局宛での個別呼び出しを受けたときに表示します。

1 各部の名称と機能

■ 表示部(操作機側)つづき




コマンドマイク(HM-206)の表示部



無線機本体の表示部

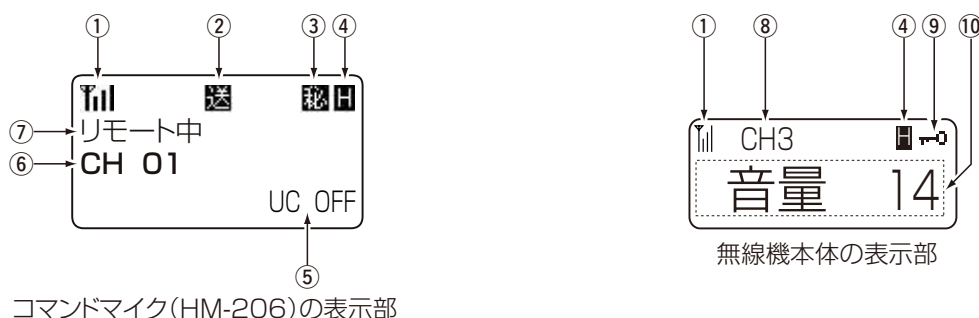
⑪	CH (例:CH 01)	待ち受け状態のとき、送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※「送」が表示されているときは、操作機の通話チャンネル番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称を表示します。
⑫	個別 (例:個別 0002)	個別呼び出し機能が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態(全体/基地/個別/グループ)と、選択した個別番号、基地局番号、グループ番号を表示します。 (※P6-1) ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、個別番号、基地局番号、グループ番号の代わりに設定された名称を表示します。
⑬	個	付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているときは、表示しません。 別売品のHM-204、AM-5、SM-28が接続されていて、個別呼び出し機能が設定されているときは、下記の個別呼び出しの選択状態を表示します。 (※P6-1) 個:個別 全:全体 基:基地 グ:グループ ※メンバー指定されたグループ番号表示のときは、「個」で表示されます。

⑭	CH (例:CH 1)	◎操作機が遠隔制御システムの場合送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ◎操作機がエリア拡張システムの場合操作機の通話チャンネル番号を表示します。 ※「送」が表示されているときは、送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※秘話機能が設定されているときは、「CH」で表示(例:CH1)されます。付属のコマンドマイク(HM-206)の表示部には、「個」で表示されます。 (※P7-1)
⑮		ロック機能が動作しているときに、表示します。 (※P8-1)
⑯	音量 14 (例:14)	◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているとき操作機の音量レベル(0~32)を表示します。 ◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されていないとき送受信機の通話チャンネル番号、全体/基地/個別/グループ番号を表示します。 ※送信権が操作機にあるときは、操作機の通話チャンネル番号を表示します。

1 各部の名称と機能

■ 表示部(送受信機側)





動作モードが「送受信機」に設定された無線機と、その無線機に接続されたコマンドマイクの表示です。



コマンドマイク(HM-206)の表示部

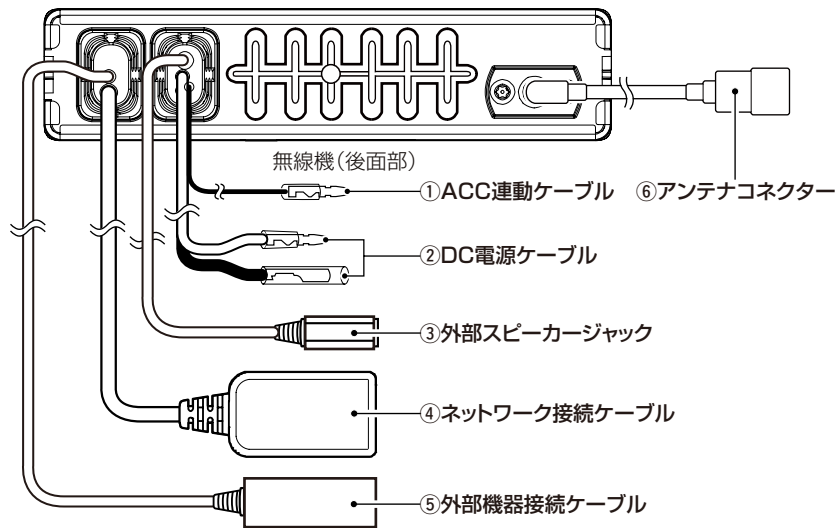
無線機本体の表示部

★1 印の表示は、コマンドマイクと無線機本体の表示部に表示されます。

①	 ★1	操作機、または送受信機のアンテナで受信している電波の強度を、下図の3段階(目安)で表示します。 弱 中 強 ※「  」は、電源が入っているときは常に表示されています。	⑦	リモート中	IPネットワーク接続されているとき、表示します。 ※接続できなかったときは、「  回線エラー」を表示します。
②		送信権がある(送受信機に設定された無線機から電波が送信できる)ときに表示します。	⑧	CH (例:CH 3)	送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※秘話機能が設定されているときは、「  」で表示(例:  1)されます。 (※P7-1) 付属のコマンドマイク(HM-206)の表示部には、「  」で表示されません。
③		操作機側で秘話機能が設定されているときに表示します。(※P7-1) ※無線機本体の「CH」(⑧)表示が「  」で表示(例:  1)されます。	⑨		ロック機能が動作しているときに、表示します。(※P8-1)
④	 ★1	各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定を表示します。 5Wのときに表示します。	⑩	音量 14 (例:14)	◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されているとき送受信機の音量レベル(0~32)を表示します。 ◎付属のコマンドマイク(HM-206)が接続されていないとき送受信機の通話チャンネル番号、全体/基地/個別/グループ番号を表示します。
	 ★1	1Wのときに表示します。			
	 ★1	送信禁止チャンネルを選択したときに表示します。			
⑤	UC OFF	各通話チャンネルのユーザーコード設定を表示します。 OFF (000) :ユーザーコードなし 001~511 :ユーザーコードあり			
⑥	CH (例:CH 01)	待ち受け状態のとき、送受信機の通話チャンネル番号を表示します。 ※お買い上げの販売店で名称表示が設定されている場合は、通話チャンネル番号の代わりに設定された名称を表示します。			

1 各部の名称と機能

■ 後面部



① ACC連動ケーブル(青色)

自動車の鍵(エンジンスイッチ)の操作に連動して、本製品の電源を「入」/「切」できるようなときは、鍵をACC(アクセサリ)の位置で12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになるラインに接続します。

※ACCと連動させないときは、接続の必要はありません。
ほかの機器の端子などに接触しないように、ACC連動ケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

② DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。
※卓上電源装置(別売品:PS-230A)と接続することもできます。(P10-1)

【低電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「低電圧」と表示され、警告音が鳴ります。

「低電圧」と表示されているあいだは、動作しません。

※動作範囲の電圧に戻るまで、無線機としての動作をしません。

③ 外部スピーカージャック(φ3.5mm/4Ω/モノラル)

外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)のスピーカーと接続します。

※AM-5(別売品)、またはSM-28(別売品)のマイクロホンを使用するときは、外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)を接続してください。

④ ネットワーク接続ケーブル

操作機と送受信機に設定された本製品(2台)をHUBなどのネットワーク機器を経由して接続します。

※接続するときは、「カチッ」と鳴るまで差し込んでください。

※故障の原因になりますので、マイクロホンは接続しないでください。

※お買い上げの販売店でIPネットワークの設定が完了するまで、既存のネットワークに接続しないでください。

⑤ 外部機器接続ケーブル

マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)接続用のケーブルです。

※将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)にも使用します。

データ通信を使用するには、お買い上げの販売店で、設定する必要があります。

⑥ アンテナコネクタ

アンテナと接続します。(M型:50Ω)

2

無線機を起動するには

1 電源を入れる(操作機/送受信機)

操作機と送受信機の電源を入れます。

[電源]キーを長く(1秒以上)押します。

- 「ピー」と鳴り、選択されている通話チャンネル番号を読み上げます。

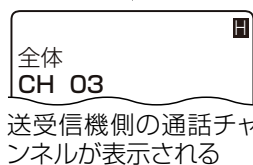
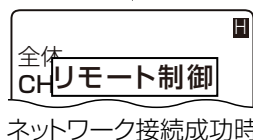
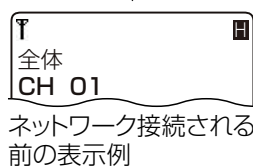
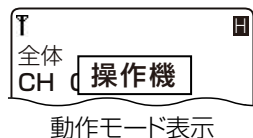
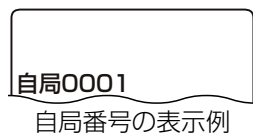
【自局番号表示について】

個別呼び出し機能(☞P6-1)が設定されているとき、通話には、操作機側に表示された自局番号を使用します。

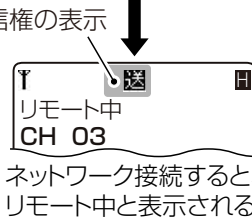
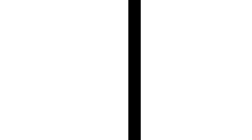
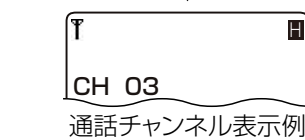
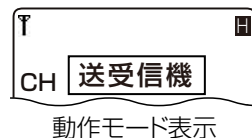
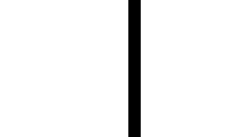
なお、自局番号に名称が設定されている場合は、その自局番号の代わりに、名称が表示されます。



【操作機側の表示】



【送受信機側の表示】



橙色に点灯すると、通話できる。

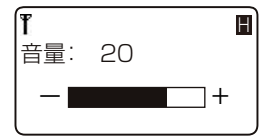


2 音量を調整する(操作機/送受信機)

[◀]/[▶]キーを押すと、音量を調整できます。

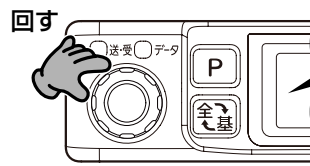
相手の音声聞きやすい音量レベルに調整してください。

- 0~32の範囲で調整します。



音量表示(表示例:20)

【無線機のつまみで調整するには】



音量表示(表示例:15)

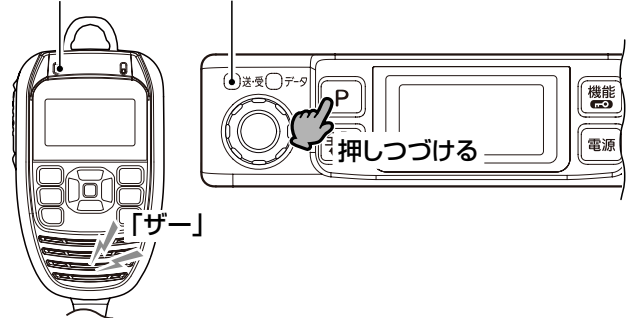
【「ザー」という音を聞きながら調整するには】

[P](プログラム)キーを押しつづけます。

- [送・受]ランプが緑色に点灯して、「ザー」という音が出ます。

※ [P](プログラム)キーの動作が、送信権の切り替え操作(☞P9-7)などに割り当てられているときは、動作しません。

[P](プログラム)キーを押し続けているあいだ緑色に点灯



【ご注意】

音量が最小のときは、操作音(ピー音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

【ご参考】チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

(☞P9-8)

2 無線機を起動するには

■ 通話するときのアドバイス

1. マイクロホンの使いかた

◎ マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

◎ [PTT] (送信) スイッチを押すと、「ピッ」と鳴ります。そのあとマイクロホンに向かって話してください。

※ 個別呼び出し機能 (☎ P6-1) が「ON」のときは、「ピッ」と鳴ります。

2. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。

制限時間の10秒前になると、ピープ音が「ピッ」と鳴ります。連続通話時間が5分になると、警告音が「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。

※ 送信を自動停止すると、1分間は通話できません。

通話を再開する場合は、1分後に [PTT] (送信) スイッチを押してください。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

※ 通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、移動機が場所を移動してから、通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、無線機をはなしてご使用ください。

5. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。

また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、使用中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。

3秒以上通話が途切れた場合、本製品が通話を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。



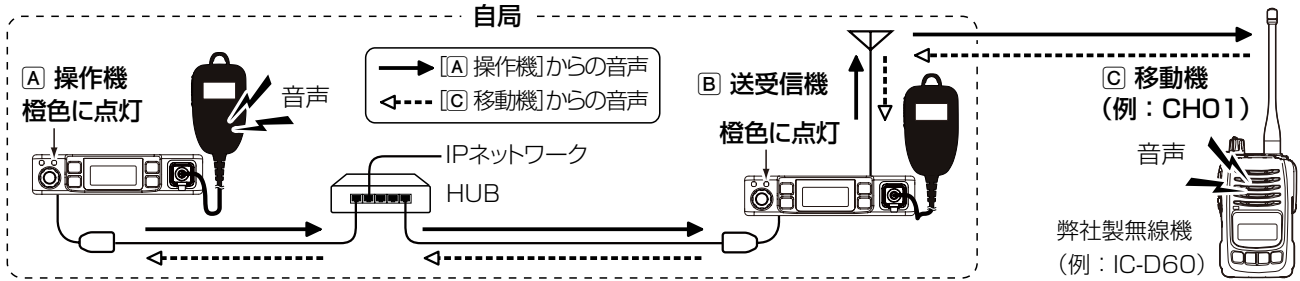
キャリアセンス機能が動作したときの表示例

3

遠隔制御システムでの通話方法

■「遠隔制御システム」について

操作機が「遠隔制御システム」に設定されている場合は、下図の構成で、[A] 操作機と[C] 移動機が通話できます。
※この章では、通話相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの簡単な通話方法について説明しています。



◎ネットワーク機能が「ON」に設定されているときは、以下の機能と併用できませんので、ご注意ください。

「拡声器機能」、「録音再生機能」、「各スキャン機能」、「データ通信」、「空きチャンネルサーチ機能」、「呼出CH(CH15)」

◎ [A] 操作機に接続されたコマンドマイク(HM-206)から、呼び出したい[C] 移動機(例:IC-D60)の通話チャンネルを選択して送信すると、[B] 送受信機から電波が送信され、[C] 移動機がその電波を受信します。

◎ [C] 移動機(例:IC-D60)から送信された電波を[B] 送受信機で受信すると、[C] 移動機の音声、IPネットワークを経由して、[A] 操作機に接続されたコマンドマイクから聞こえます。

※お買い上げの販売店で、送受信機のモニター機能(■ 送受信機で通話内容を聞くにはP8-1)が設定されている場合、[A] 操作機と[C] 移動機の通話が、[B] 送受信機に接続されたコマンドマイクからも聞こえます。

◎ [A] 操作機は、IPネットワーク経由で[B] 送受信機を遠隔制御するだけです、アンテナの接続は不要です。

◎ネットワーク機能使用時、呼出CHは使用できません。

この場合、[C] 移動機に呼出CHを設定しても本製品で通話できません。

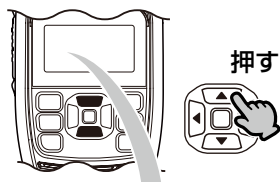
■ 移動機と通話するには

通話するときは、[A] 操作機に接続されたコマンドマイク(HM-206)を使用します。

※コマンドマイクに「 回線エラー」が表示され、「データ」ランプが消灯(P1-7)しているときは、[B] 送受信機の電源が入っていることを確認してください。

1 通話チャンネルを合わせる

[A] 操作機の[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。



通話チャンネルの選択(例:CH 01)

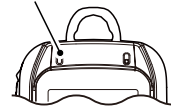
2 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



[A] 操作機の[PTT] (送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

● [PTT] (送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。

※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。



送信中の表示(例:CH01)

3 遠隔制御システムでの通話方法

■ 移動機と通話するには(つづき)

3 呼び出しを受ける(受信する)

〔A 操作機〕の〔PTT〕(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。電波を受信中は、〔送・受〕ランプが緑色に点灯して、受信している電波状態を表示します。待ち受け状態のときは、〔送・受〕ランプが消灯しています。



受信中の表示例(例:CH01)

※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、〔送・受〕ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

【応答するときは】

〔送・受〕ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、〔A 操作機〕の〔PTT〕(送信)スイッチを押します。

4

エリア拡張システムでの通話方法

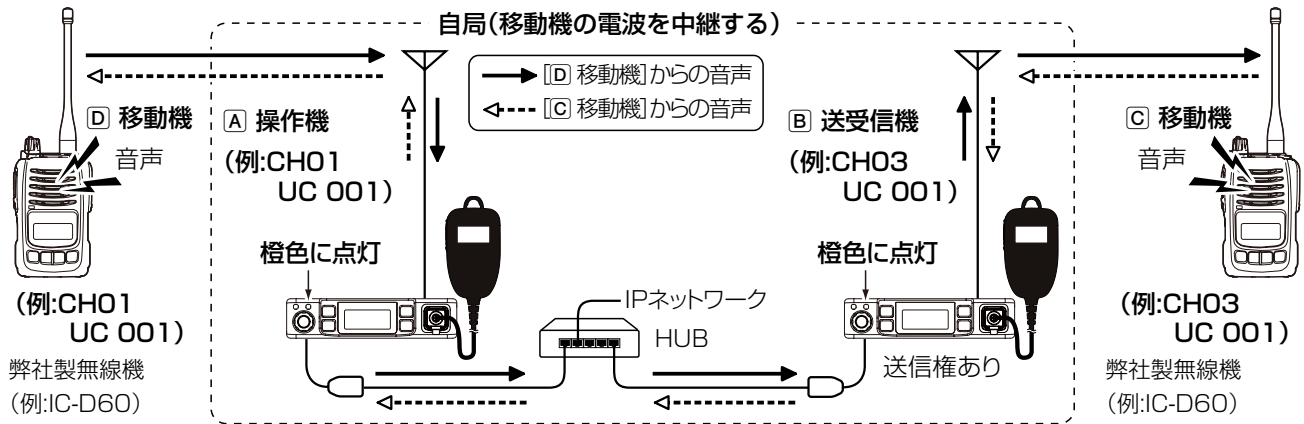
■「エリア拡張システム」について

遠隔制御システムより広範囲に移動機と通話できるシステムです。

操作機が「エリア拡張システム」に設定、移動機間通信機能が操作機と送受信機に設定されている場合は、本製品に接続されているIPネットワークを経由して、[D] 移動機と[C] 移動機が通話ができます。

※下図の構成で、[D] 移動機と[C] 移動機が通話できるのは、ユーザーコード(※P5-1)が設定された通話チャンネル番号を選択したときだけです。

※[A] 操作機の[PTT] (送信) スイッチを押すと、中継が中断され、移動機の呼び出しに応答することもできます。



◎ネットワーク機能が「ON」に設定されているときは、以下の機能と併用できませんので、ご注意ください。

「拡声器機能」、「録音再生機能」、「各スキャン機能」、「データ通信」、「空きチャンネルサーチ機能」、「呼出CH(CH15)」

◎[C] 移動機から送信された電波(例:CH03 UC 001)を[B] 送受信機で受信すると、[C] 移動機の音声はIPネットワークを経由して、[A] 操作機に接続されたコマンドマイク(HM-206)から聞こえると同時に、[A] 操作機が自動で送信状態(例:CH01 UC 001)になり、その電波を[D] 移動機で受信します。

このとき、[A] 操作機の[PTT] (送信) スイッチを押しつづけると、中継が中断され、[C] 移動機の呼び出しに応答できます。

◎[D] 移動機から送信された電波(例:CH01 UC 001)を[A] 操作機で受信すると、[D] 移動機の音声は[A] 操作機に接続されたコマンドマイクから聞こえると同時に、IPネットワークを経由して、[B] 送受信機が自動で送信状態(例:CH03 UC 001)になり、その電波を[C] 移動機で受信します。

このとき、[A] 操作機の[PTT] (送信) スイッチを押しつづけると、中継が中断され、[D] 移動機の呼び出しに応答できます。(送信権は、[A] 操作機に自動で切り替わります。)

◎お買い上げの販売店で、送受信機のモニター機能(■ 送受信機で通話内容を聞くには※P8-1)が設定されている場合、[D] 移動機と[C] 移動機の通話が、[B] 送受信機に接続されたコマンドマイクからも聞こえます。

◎[A] 操作機と[B] 送受信機の通話チャンネル番号の選択は、次ページの「■ 移動機同士が通話するには」(※P4-2)をご覧ください。

[A] 操作機と[B] 送受信機は、同じ通話チャンネル番号を選択できません。

[A] 操作機の通話チャンネルを変更するには、送信権*を[A] 操作機に切り替えると選択できます。

★送信権の切り替えは、あらかじめ、詳細設定モードで、設定されているときだけ、操作できます。

本書では、送信権の切り替え操作が[P] (プログラム) キーの長押しに割り当てられているものとして説明しています。

◎[A] 操作機が[D] 移動機、または[C] 移動機と通話する手順については、「■ 操作機と移動機が通話するには」(※P4-3)をご覧ください。

◎個別呼び出し機能(※P6-1)が設定されている場合は、呼び出す相手局の個別番号も指定します。

[D] 移動機から[C] 移動機を呼び出す場合

[D] 移動機に、[A] 操作機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと[C] 移動機の個別番号を設定します。

[D] 移動機から[A] 操作機を呼び出す場合

[D] 移動機に、[A] 操作機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと[A] 操作機の個別番号を設定します。

[C] 移動機から[A] 操作機を呼び出す場合

[C] 移動機に、[B] 送受信機のユーザーコードが設定された通話チャンネルと[A] 操作機の個別番号を設定します。

◎ネットワーク機能使用時、呼出CHは使用できません。

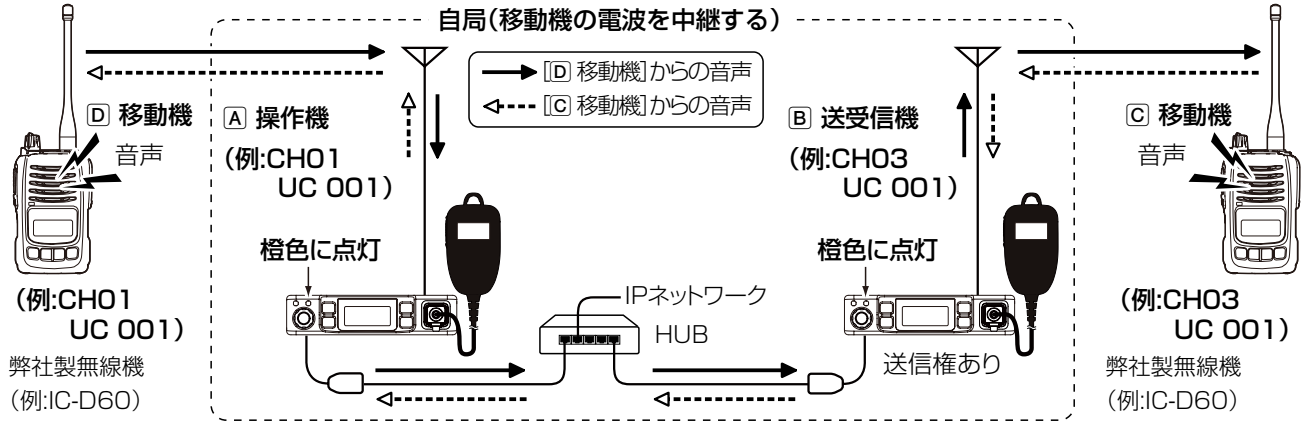
この場合、[C] 移動機、または[D] 移動機に呼出CHを設定しても本製品を経由して通話できません。

4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 移動機同士が通話するには

下記の 1～4 の手順にしたがって、[A 操作機]と[B 送受信機]の通話チャンネルを移動機に合わせておくだけで、受信した移動機の電波を本製品が中継して、[D 移動機]と[C 移動機]が通話できます。

※通話チャンネルの選択は、[A 操作機]に接続されたコマンドマイク(HM-206)を使用します。

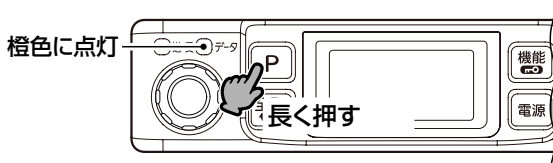


※コマンドマイクに「 回線エラー」が表示され、[データ]ランプが消灯()しているときは、[B 送受信機]の電源が入っていることを確認してください。

1 [データ]ランプの点灯(橙色)を確認する

無線機の[データ]ランプが消灯している場合は、[A 操作機]の[P] (プログラム)キーを長く押し、送信権を[B 送受信機]に切り替えます。

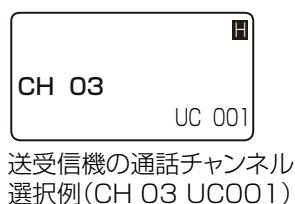
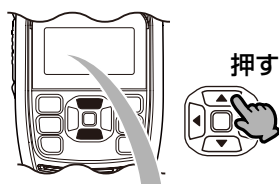
- 無線機の[データ]ランプが橙色に点灯します。
- ★本書では、送信権の切り替え操作が[P] (プログラム)キーの長押しに割り当てられているものとします。



2 [B 送受信機]の通話チャンネルを合わせる

[A 操作機]の[▲]/[▼]キーを押して、[B 送受信機]側の[C 移動機]と同じユーザーコード(例:UC001)が設定された通話チャンネル(例:CH 03)を選択します。

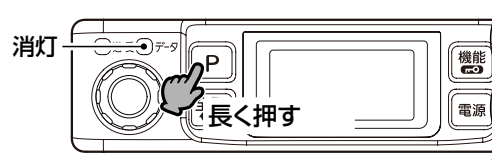
※[C 移動機]と通話チャンネルとユーザーコードが異なるときは、中継できません。



3 送信権を[A 操作機]に切り替える

[A 操作機]の[P] (プログラム)キーを長く押し、送信権を[A 操作機]に切り替えます。

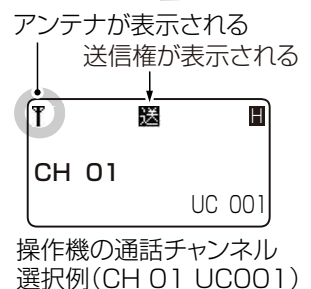
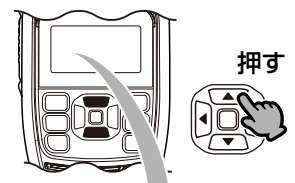
- 無線機の[データ]ランプが消灯します。



4 [A 操作機]の通話チャンネルを合わせる

[A 操作機]の[▲]/[▼]キーを押して、[A 操作機]側の[D 移動機]と同じユーザーコード(例:UC 001)が設定された通話チャンネル(例:CH 01)を選択します。

※[D 移動機]と通話チャンネルとユーザーコードが異なるときは、中継できません。



4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには

操作機が「エリア拡張システム」に設定されている場合は、1～4の手順で操作すると、本製品に接続されているIPネットワークを経由して、[A 操作機]が[D 移動機]、または[C 移動機]と通話できます。

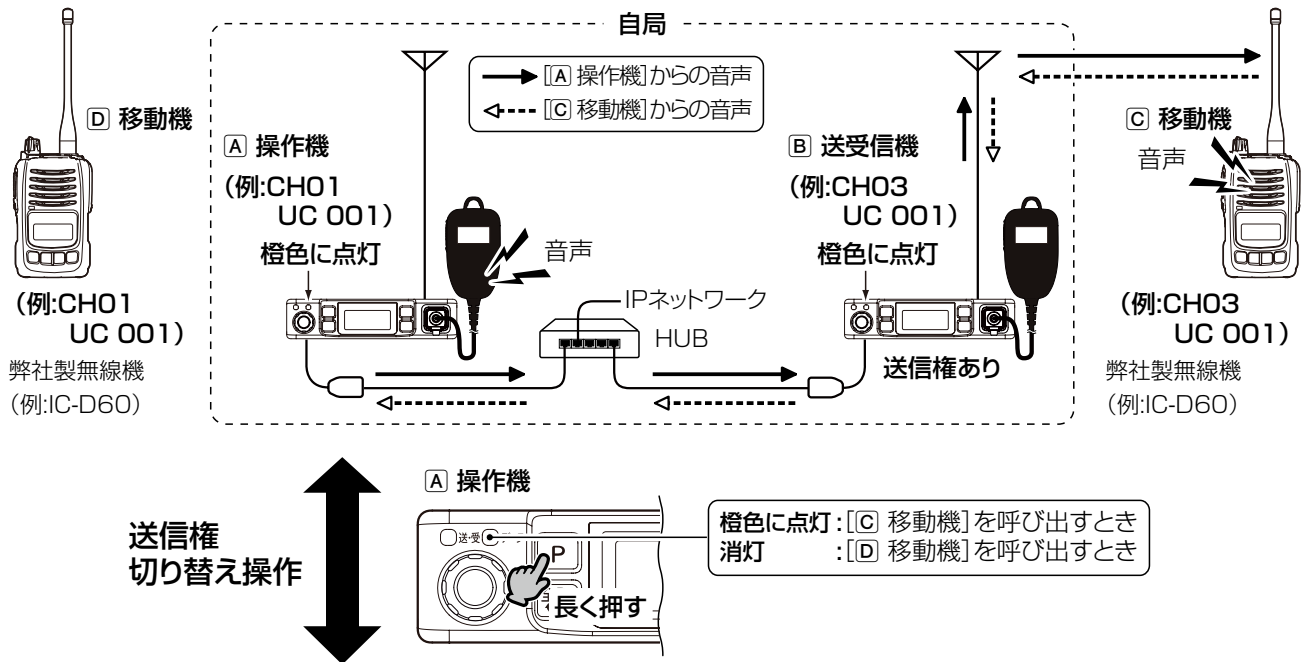
※ [D 移動機]と[C 移動機]の通話(※P4-2)にも使用されるものとして、ユーザーコード(※P5-1)が設定された通話チャンネルでの通話を例に説明しています。

1 送信権を切り替える

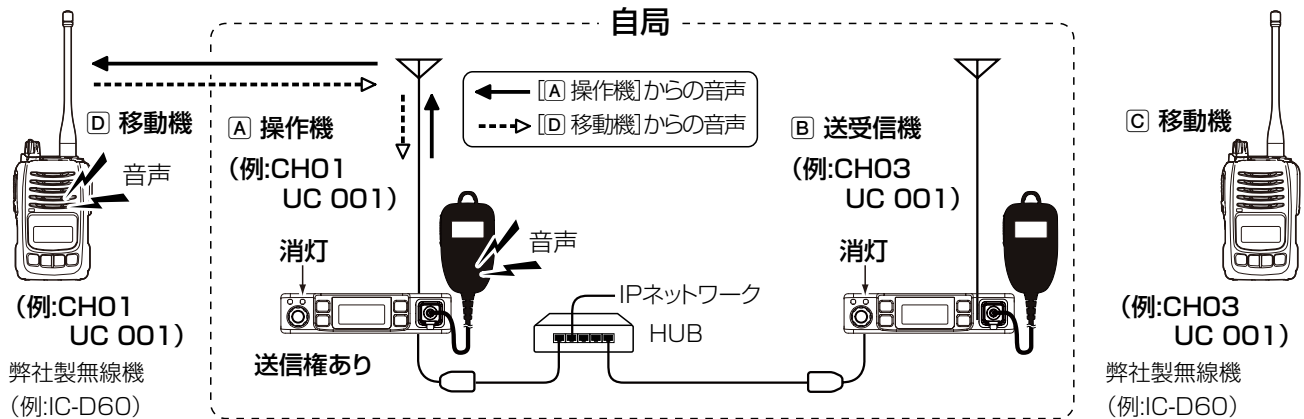
[A 操作機]の[PTT] (送信)スイッチを押しつづけたとき、[D 移動機]と[C 移動機]のどちらを呼び出すかは、[A 操作機]の[P] (プログラム)キーの操作で、送信権★を[A 操作機]と[B 送受信機]のどちらかに切り替えます。

★送信権の切り替えは、詳細設定モードで、設定されているときだけ、操作できます。(※P9-2)
本書では、送信権の切り替え操作が[P] (プログラム)キーの長押しに割り当てられているものとして説明しています。

[A 操作機]から[C 移動機]を呼び出すとき



[A 操作機]から[D 移動機]を呼び出すとき



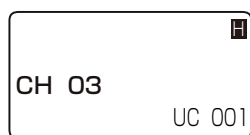
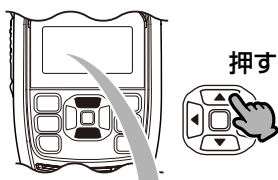
4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには(つづき)

2 通話チャンネルを合わせる

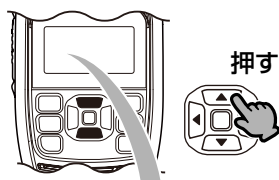
[A 操作機]の[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

○[データ]ランプが橙色に点灯時の操作と表示

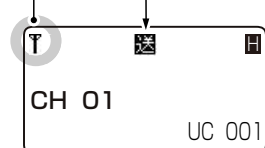


送受信機の通話チャンネル選択例(CH 03 UC001)

○[データ]ランプが消灯時の操作と表示



アンテナが表示される
送信権が表示される



操作機の通話チャンネル選択例(CH 01 UC001)

3 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※[送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認

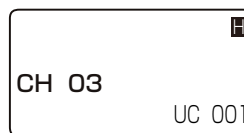


[A 操作機]の[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

●[PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。

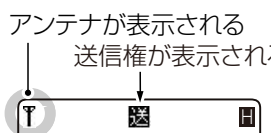
※送信直後、「先方送信」が一時的に表示されます。

○[データ]ランプが橙色に点灯時の操作と表示



送信中の表示例

○[データ]ランプが消灯時の操作と表示



送信中の表示例

4 エリア拡張システムでの通話方法

■ 操作機と移動機が通話するには(つづき)

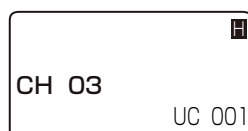
4 呼び出しを受ける(受信する)

[A 操作機]の[PTT](送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、[送・受]ランプが緑色に点灯します。

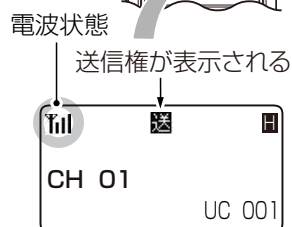
待ち受け状態のときは、[送・受]ランプが消灯しています。

◎ [C 移動機]から呼び出しを受けたとき



受信中の表示例

◎ [D 移動機]から呼び出しを受けたとき



受信中の表示例

※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、[送・受]ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

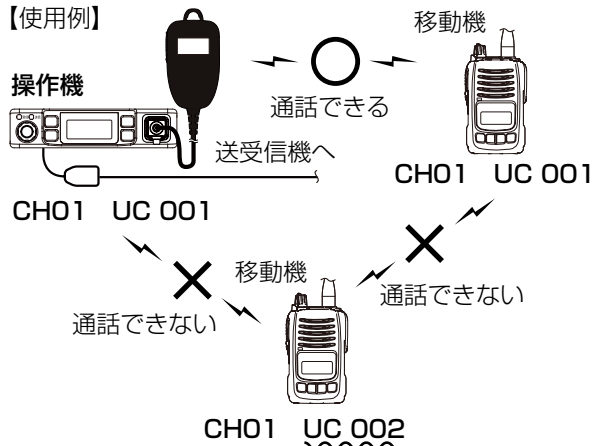
移動機からの呼び出しを受信すると、その無線機に送信権が自動で切り替わります。

[送・受]ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、[A 操作機]の[PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、呼び出しを受けた移動機に応答できます。

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。

通話チャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。



移動機の図は、IC-D60(弊社製無線機)を例にしています。

【ご参考】ユーザーコードの設定方法変更について

通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)ごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、「■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには」(※P5-2)でユーザーコードの設定を変更してください。

■ ユーザーコードを設定して通話するには

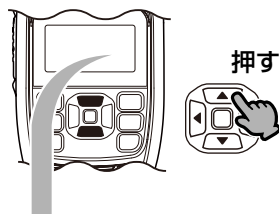
ユーザーコードを000から001に変更することを例に、操作機での操作手順を説明します。

1 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

- 選択範囲: 01～14、
16～30

※CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したときに、ピーブ音が「ピピッ」と鳴ります。



(例:CH 01 選択時)

2 ユーザーコードを設定する

- ① [メニュー/⇐○]キーを短く押します。

- メニュー画面が表示されます。



- ② [決定]キーを押します。

- ユーザーコードの設定状態が表示されます。



- ③ [個別番号帳]キーを押します。

- ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。



- ④ [▶]キーを2回押します。

- 編集できる桁(白黒反転表示)が右端に移動します。



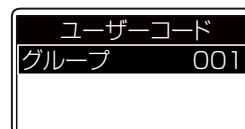
- ⑤ [▲]/[▼]キーを押して、ユーザーコードを設定します。(例:001)

- 選択範囲: OFF(000)、001～511



- ⑥ [決定]キーを押します。

- ユーザーコードの変更が確定されます。



- ⑦ [戻る]キーを2回押します。

- 通話チャンネル表示に戻ります。



5 ユーザーコードによるグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを設定して通話するには
(つづき)

3 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声がか聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



操作機の【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

●【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示(例:CH01)

4 呼び出しを受ける(受信する)

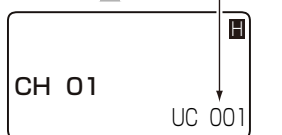
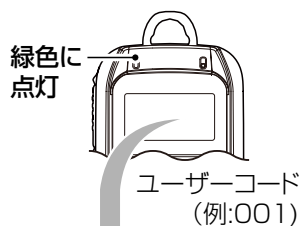
操作機の【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

※音声がか聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、操作機の【PTT】(送信)スイッチを押します。



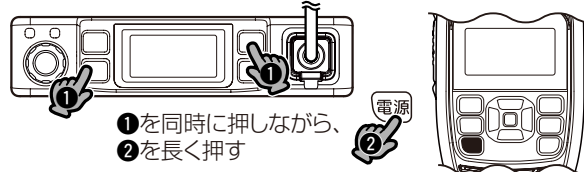
受信中の表示(例:CH01)

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用できます。CH04にユーザーコードを000から002に変更することを例に、操作機での操作手順を説明します。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② 【全⇄基】キーと【機能/電源】キーを同時に押しながら、【電源】キーを押しつづけます。



- ①を同時に押しながら、
- ②を長く押す

- ③「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

※詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

※この章の説明で使用する設定値は、5-1ページの【使用例】に記載の値を使用しています。

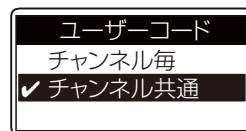
詳細設定

2 ユーザーコードで「チャンネル毎」を選択する

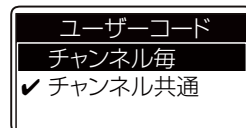
- ① 【▲】/【▼】キーを繰り返し押して、「ユーザーコード」を選択します。



- ② 【決定】キーを押します。



- ③ 【▲】/【▼】キーを繰り返し押して、「チャンネル毎」を選択します。



- ④ 【決定】キーを押します。

●設定が確定され、手順①の画面に戻ります。

5 ユーザーコードによるグループ通話のしかた

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

3 ユーザーコードを設定する

① **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押し、「チャンネル毎UC」を選択します。

設定	
マイクゲイン	▶
ユーザーコード	▶
チャンネル毎UC	▶

② **[決定]**キーを押します。

- チャンネル番号とユーザーコードが表示されます。

チャンネル毎UC	
CH01	OFF
CH02	OFF
CH03	OFF

③ **[▲]/[▼]**キーを繰り返し押し、チャンネル番号を選択します。(例:CH04)

- 選択範囲:01～30

チャンネル毎UC	
CH04	OFF
CH05	OFF
CH06	OFF

④ **[個別番号帳]**キーを押します。

- ユーザーコードの数字が白黒反転表示になり、編集できる状態になります。

チャンネル毎UC	
CH04:	
00	

⑤ **[▶]**キーを2回押します。

- 編集できる桁(白黒反転表示)が右端に移動します。

チャンネル毎UC	
CH04:	
00	

⑥ **[▲]/[▼]**キーを押して、ユーザーコードを設定します。(例:002)

- 選択範囲:OFF(000)、001～511

チャンネル毎UC	
CH04:	
00	2

⑦ **[決定]**キーを押します。

- ユーザーコードの設定が確定されます。

チャンネル毎UC	
CH04	002
CH05	OFF
CH06	OFF

※ほかのチャンネル番号のユーザーコードも編集するときは、③～⑦を繰り返します。

※**[戻る]**キーを押すと、チャンネル番号選択状態に戻ります。

4 選択した設定方法に変更する

[PTT](送信)スイッチを押します。

- 詳細設定モードが解除され、ユーザーコードが変更されます。

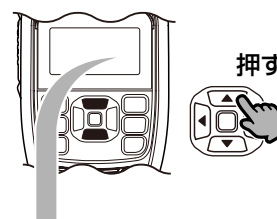


5 通話チャンネルを合わせる

操作機の**[▲]/[▼]**キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

- 選択範囲:01～14、16～30

※CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したときに、ピープ音が「ピピッ」と鳴ります。



CH 04	UC 002
-------	--------

(例:CH 04選択時)

5 ユーザーコードによるグループ通話のしかた

■ チャンネル毎にユーザーコードを設定して通話するには(つづき)

6 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声がかえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

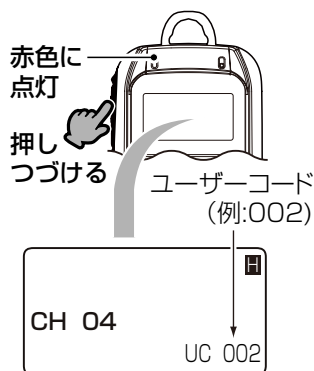
※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認



操作機の【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

●【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示(例:CH04)

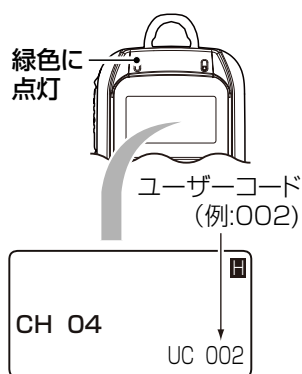
7 呼び出しを受ける(受信する)

操作機の【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

※音声がかえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、【送・受】ランプが緑色に点灯します。



受信中の表示(例:CH04)

【応答するときは】

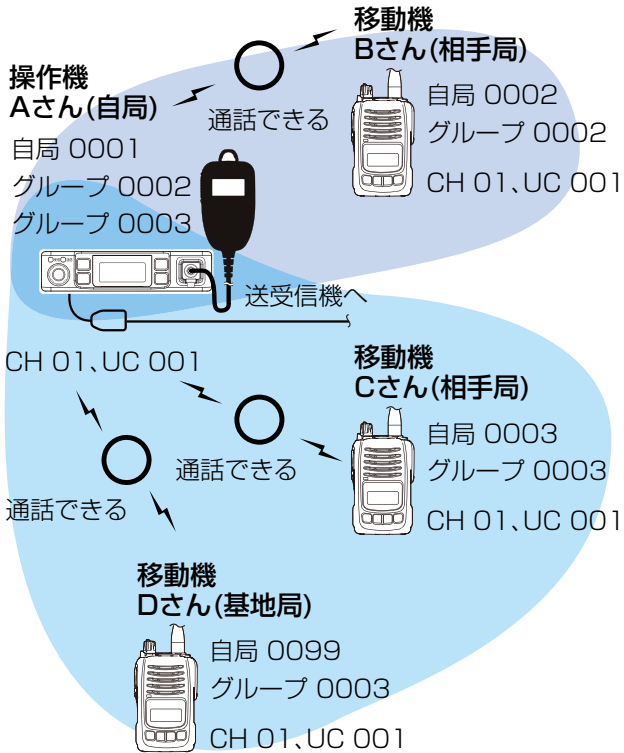
【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、操作機の【PTT】(送信)スイッチを押します。

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出しの種類について、下図を例に説明します。

【使用例】

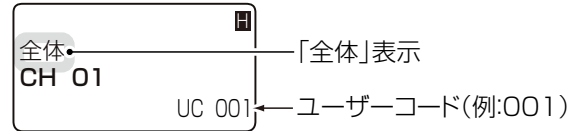
下図の は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



移動機の図は、IC-D60(弊社製無線機)を例にしています。

呼び出しかたには、次の4種類の方法があります。

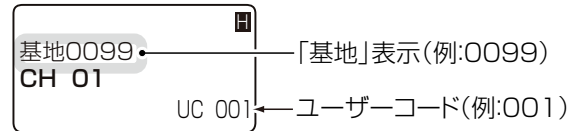
◎全体呼び出し



全体呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

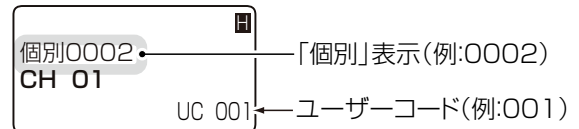
◎基地局呼び出し



基地呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す基地局(例:Dさん)の自局番号(例:0099)を指定して呼び出します。

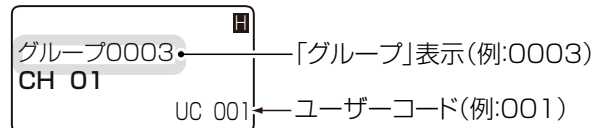
◎個別呼び出し



個別呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し



グループ呼び出し表示(例:CH01)

通話チャンネル(例:CH 01)とユーザーコード(例:UC 001)が同じで、メンバー指定*されたグループ番号(例:グループ 0003)に所属するすべての相手(例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

★同じグループ番号で、そのグループ番号にメンバー指定を設定している受信局だけが、送信局からの音声聞けます。

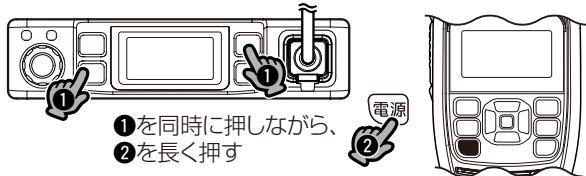
メンバー指定の変更は、詳細設定モードで設定できます。

6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには
通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基]キーと[機能/⇄O]キーを同時に押しながら、[電源]キーを押しつつけます。

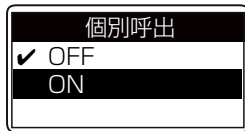
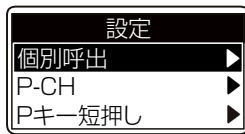


- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。
※ この章の説明で使用する設定値は、6-1ページの【使用例】に記載の値を使用しています。



2 個別呼び出し機能を「ON」にする

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「個別呼出」を選択します。
- ② [決定]キーを押します。
- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「ON」を選択します。
- ④ [決定]キーを押します。



※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「自局番号」を選択します。
- ② [決定]キーを押します。
- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、自局番号を設定します。
 - 選択範囲: 個別0001～個別0245
- ④ [決定]キーを押します。



自局番号表示
(例: 個別0001)

【設定例】

個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
Aさん(自局) : 0001 Bさん(相手局) : 0002
Cさん(相手局) : 0003 Dさん(基地局) : 0099

4 基地局番号を設定する

基地局番号とは、基地局として指定された局の番号です。

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、「基地局番号」を選択します。
- ② [決定]キーを押します。
- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、基地局番号を設定します。
 - 選択範囲: 個別0001～個別0245
- ④ [決定]キーを押します。



基地局番号表示
(例: 個別0099)

6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

5 グループ呼び出しを設定する

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

①【▲】/【▼】キーを繰り返し押し、「グループ設定」を選択します。

②【決定】キーを押します。

③【▲】/【▼】キーを繰り返し押し、指定するグループ番号を選択します。

- 選択範囲: グループ0001～グループ0010

④ 選択したグループ番号(例: グループ 0002)を表示した状態で、【決定】キーを押します。



- メンバー指定を意味する「■」を表示します。

※ 複数のグループからの呼び出しを受けるときは、③と④の操作を繰り返します。

【メンバー指定するグループ番号の例】

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

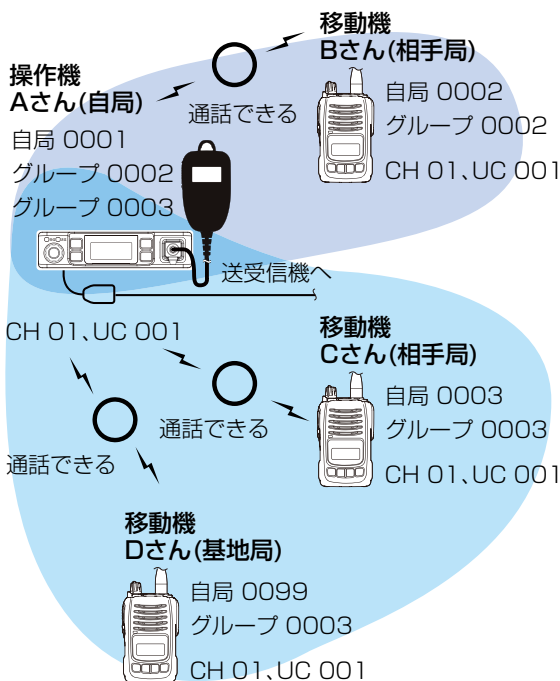
Aさん(自局) : グループ0002/グループ0003

Bさん(相手局) : グループ0002

Cさん(相手局) : グループ0003

Dさん(基地局) : グループ0003

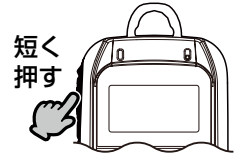
図の ■■■ は、Aさん(自局)が呼び出しできるグループを意味します。



移動機の図は、IC-D60(弊社製無線機)を例にしています。

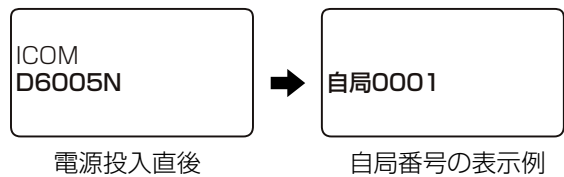
6 変更した設定値を確定する

2～5 のステップで変更した設定値を確定するために、【PTT】(送信)スイッチを押します。



- 詳細設定モードが解除され、「D6005N」が表示されたあと、設定した自局番号(約1秒)が表示されます。

【自局番号表示例】



★自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/個別番号/グループ番号)によって異なります。

6 個別呼び出し機能による通話

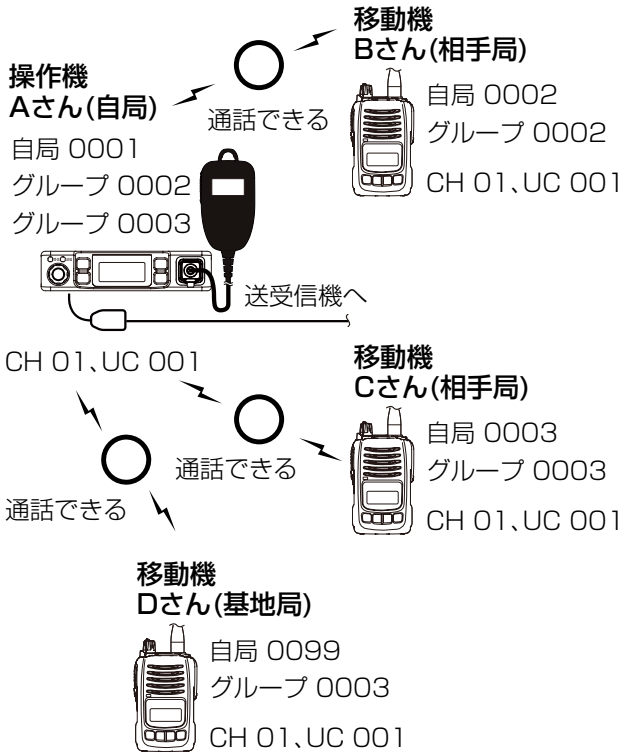
■ 個別呼び出し機能で通話するには

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※ 個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(※P6-2 ~P6-3)されているものとして説明しています。

【Aさんから呼び出す場合の使用例】

通話チャンネル番号と、呼び出す相手(全体/基地/個別/グループ番号)を選択してから送信します。



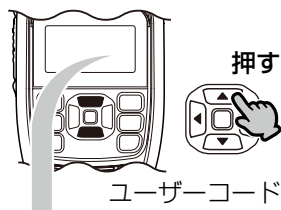
移動機の図は、IC-D60(弊社製無線機)を例にしています。

1 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例:全体呼び出し)

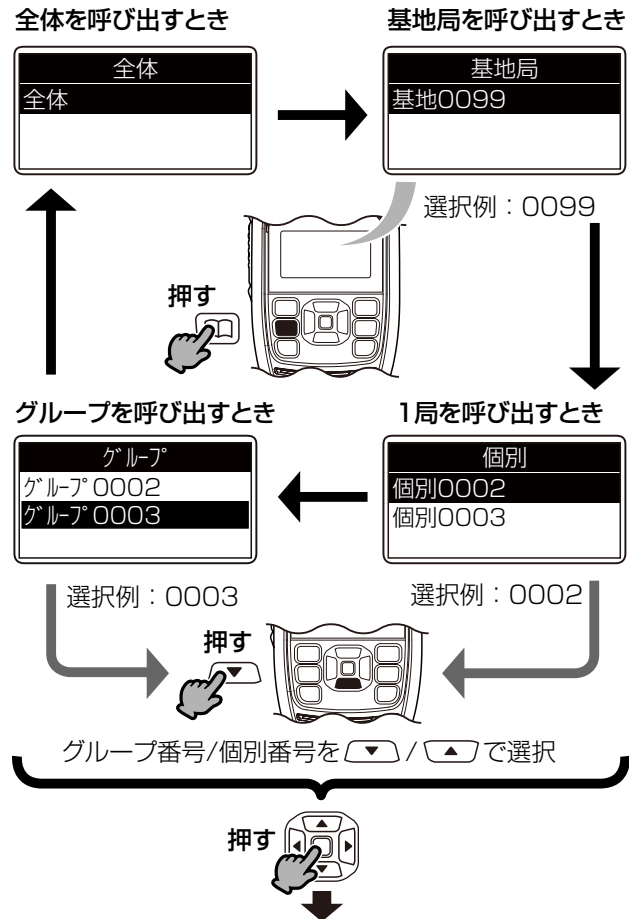
※ 選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

① 下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



② 選択されていることを確認します。

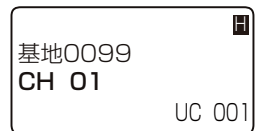
◎全体を選択した場合

「全体」表示 (例:CH 01)



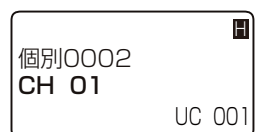
◎基地局を選択した場合

「基地局」表示
(例:基地0099)



◎1局(個別)を選択した場合

「個別」表示
(例:個別0002)



◎グループ番号を選択した場合

「グループ番号」表示
(例:グループ0003)



6 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

3 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

【送・受】ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※【送・受】ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認

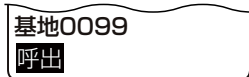


操作機の【PTT】(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

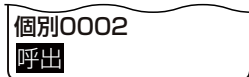
- 【PTT】(送信)スイッチを押しているあいだは、【送・受】ランプが赤色に点灯します。



全体呼び出しで送信



基地局呼び出しで送信



個別呼び出しで送信



グループ呼び出しで送信

【相手局が通話圏内かどうかを確認するには】

基地局、または個別番号を選択したあと、操作機の【PTT】(送信)スイッチを短く押します。

- 通話圏内にいる場合、「ピッ」と鳴り、【送・受】ランプが緑色に1回点滅します。通話圏外など、相手に電波が届かない状態が5秒つづく、基地局、または個別番号を選択したときの表示に戻ります。

緑色に1回点滅



4 呼び出しを受ける(受信する)

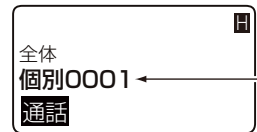
操作機の【PTT】(送信)スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。電波を受信中は、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

待ち受け状態のときは、【送・受】ランプが消灯しています。

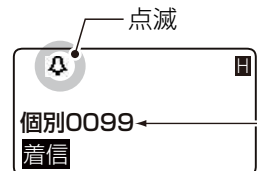
※音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話しているときは、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

【応答するときは】

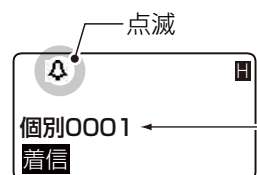
【送・受】ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、操作機の【PTT】(送信)スイッチを押します。



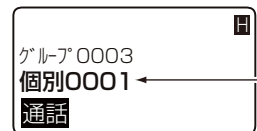
全体呼び出しを受信



基地局からの個別呼び出しを受信



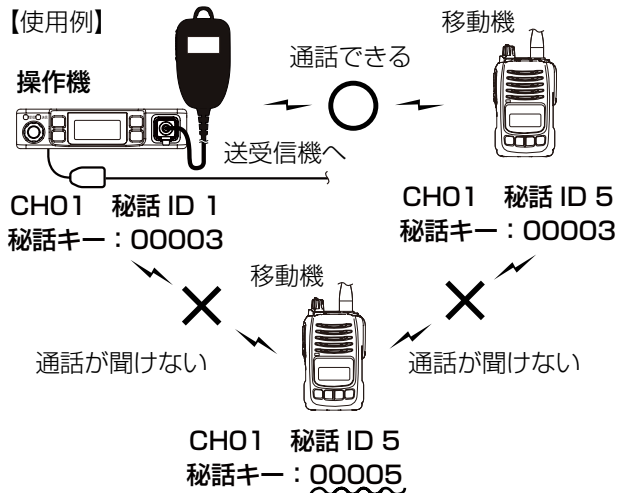
個別呼び出しを受信



グループ呼び出しを受信

7 盗聴防止の設定をするには

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。
通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した相手と通話できます。



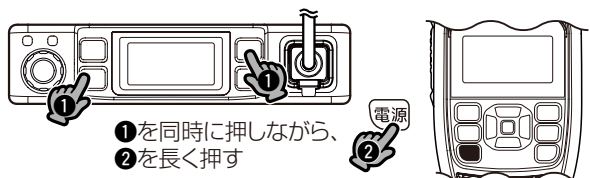
移動機の図は、IC-D60(弊社製無線機)を例にしています。

- ※ 秘話ID(1~20)ごとに異なる秘話キー(00001~32767)を設定できます。
- ※ 秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。
- ※ ユーザーコードや個別呼び出し機能による通話時も併用できます。

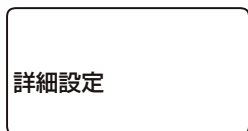
■ 秘話機能を設定するには

1 詳細設定モードにする

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全 \rightarrow 基]キーと[機能/ \rightarrow O]キーを同時に押しながら、[電源]キーを押すつづけます。

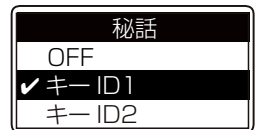
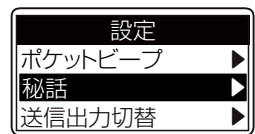


- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
- ※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。
- ※ この章の説明で使用する設定値は、上図の【使用例】に記載の値を使用しています。



2 秘話キーIDを選択する

- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、「秘話」を選択します。
 - ② [決定]キーを押します。
 - ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し短く押し、秘話キーIDを選択します。
- 選択範囲: OFF、キーID1 ~ キーID20



3 秘話キーを設定する

- ① [個別番号帳]キーを押して、キーID編集画面を表示します。
 - ② [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、秘話キーを選択します。
 - ③ [決定]キーを押して、内容を確定します。
- 選択範囲: 00001~32767
 - ※ ほかの桁も編集するときには、[◀]/[▶]キーを短く押しと編集できる桁が移動します。
 - 「秘話キーID」表示に戻ります。



4 選択した設定を有効にする

- [PTT] (送信) スイッチを押します。
- 詳細設定モードが解除され、秘話機能の設定が有効になります。
 - 右図の表示になります。



(例:CH01)

7 盗聴防止の設定をするには

■ 秘話機能を使用して通話するには

秘話機能を使用して通話をする手順です。

※7-1ページで、秘話IDに設定した秘話キーを下記で選択した通話チャンネルに使用できます。

【ご注意】

機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

1 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

- 選択範囲: 01～14、16～30

※CH01からCH30を選択したとき、またはCH30からCH01を選択したとき、ピープ音が「ピピッ」と鳴ります。



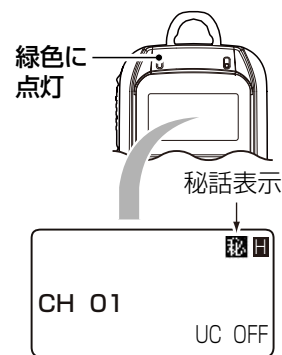
(例:CH01)

3 呼び出しを受ける(受信する)

操作機の[PTT] (送信) スイッチをはなすと、待ち受け状態になります。

電波を受信中は、[送・受]ランプが緑色に点灯します。

待ち受け状態のときは、[送・受]ランプが消灯しています。



受信中の表示(例:CH01)

2 呼び出しをする(送信する)

【ご注意】

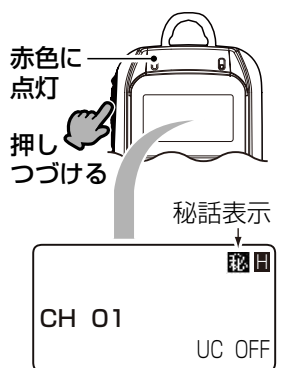
[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声は聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

※ [送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。



操作機の[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。



送信中の表示(例:CH01)

通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キーを使用して通話している)の電波を受信しているときも、[送・受]ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

※ 他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

【応答するときは】

[送・受]ランプが消灯して、待ち受け状態になってから、操作機の[PTT] (送信) スイッチを押します。

■ ロック機能

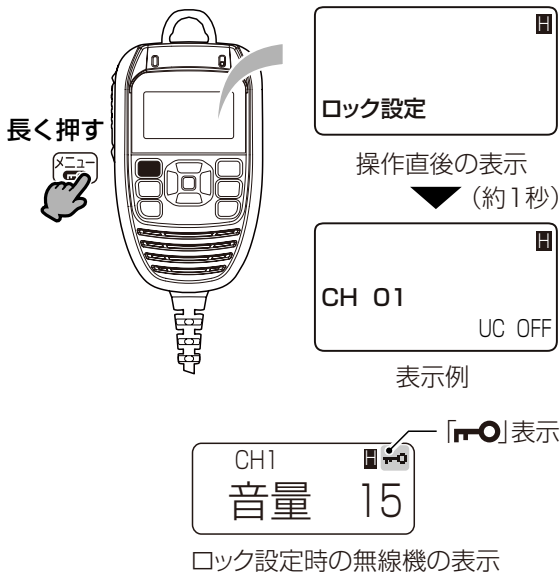
電源を入れなおしたり、不用意に、コマンドマイク(HM-206)のキー、無線機(操作機/送受信機)のキーやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ビピッ」と鳴るまで、[メニュー/Ⓜ]キーを長く(約1秒)押しします。

※ 同じ操作をすると、解除できます。

※ 表示例は、操作機側の表示を使用しています。



〈操作機で、ロック中にできる操作〉

- ロック機能の解除
- 送信/受信の切り替え
- 電源のON/OFF
- モニター機能のON/OFF
- 緊急呼び出し機能(☎P8-9)

〈送受信機で、ロック中にできる操作〉

- ロック機能の解除
 - 電源のON/OFF
 - モニター機能のON/OFF
- ※ ロック中の音量調整については、詳細設定モードでロックを解除できます。(☎P9-8)

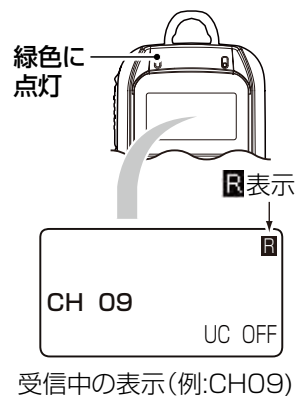
■ 受信専用機能

移動機への呼び出しや応答を禁止したいときなど、無線機の通話チャンネルを受信専用で使用できます。

※ 「R」表示された通話チャンネルでは、呼び出しや応答ができません。

※ 受信専用機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

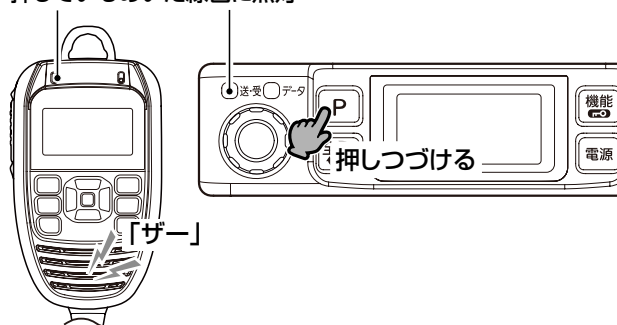
- ◎ 信号を受信していない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
 - ◎ ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くととき
- ※ 他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

【操作のしかた】

操作機、または送受信機の[P](プログラム)キーを押しているあいだ、モニター機能が動作します。

※ [P](プログラム)キーの動作が、モニター機能以外の操作に割り当てられているときは、動作しません。

【P(プログラム)キーを押しているあいだ緑色に点灯



■ 送受信機で通話内容を聞くには

あらかじめ、お買い上げの販売店で、送受信機でのモニター機能が設定されている場合、送受信機に接続したマイクロホン(HM-204、HM-206)、または外部スピーカー(SP-30、SP-35)で、操作機と移動機の通話内容が聞けます。

※ 設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

8 そのほかの機能について

■ 内線通話機能

[P] (プログラム) キーに内線通話機能が割り当てられているとき、IPネットワークに接続された操作機と送受信機のあいだで内線通話できる機能です。

※ [P] (プログラム) キーの割り当ては、詳細設定モードで設定できます。

※ 内線通話機能をお使いになるときは、必ず付属のコマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカーマイク(別売品:HM-204)を無線機に接続してください。

※ 内線通話中は、モニター機能(※P8-1)を使用できません。

※ 内線通話中は、遠隔制御システム、またはエリア拡張システムによる通話はできません。

【操作のしかた】

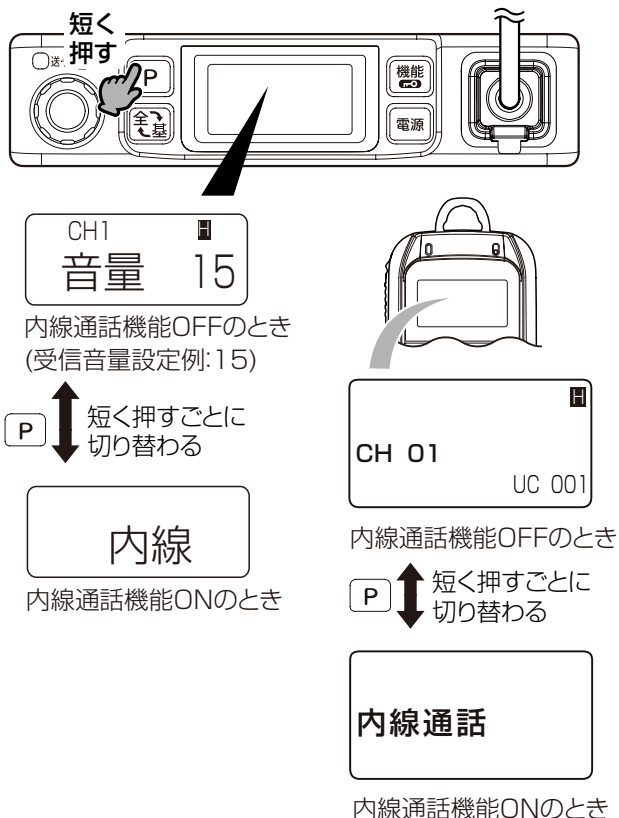
本書では、[P] (プログラム) キーを短く押したとき、内線通話機能が動作するように割り当てられているものとして説明します。

① 内線通話機能を設定している無線機(例: 操作機)の [P] (プログラム) キーを短く押します。

● 操作機と送受信機に「内線」、コマンドマイクに「内線通話」と表示されます。

※ 内線通話機能が設定されていない無線機からは、操作できません。

切り替えるときは、無線機本体を操作します。



② 操作機、または送受信機の

[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって話しかけます。

● [送・受] ランプが赤色に点灯します。

※ 話し終わったら、[PTT] (送信) スイッチをはなします。

【応答するとき】

[送・受] ランプが消灯すると、内線通話の相手に応答できます。

※ [送・受] ランプが緑色に点灯しているあいだは、内線通話の相手が

[PTT] (送信) スイッチを押しているため、応答できません。

③ もう一度、[P] (プログラム) キーを短く押すと、内線通話機能を解除します。



消灯を確認



■ ポケットビープ機能

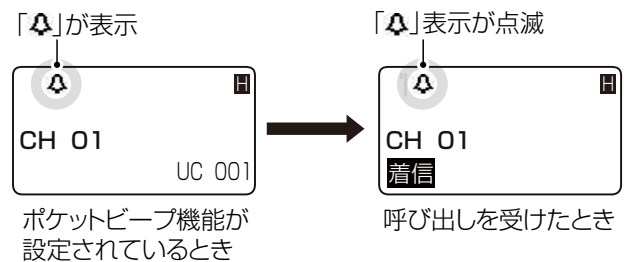
ユーザーコードや個別呼び出し機能が設定されている場合、使用できる機能です。


呼び出しを受けたとき、「」表示が点滅に変わります。

同時に、ビープ音、またはメロディーで通知します。


※ ポケットビープ機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、詳細設定モードで設定できます。



◎ ユーザーコードと個別呼び出し機能を併用している場合も、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けると「」表示が点滅に変わります。

◎ 呼び出しを受けたとき、ビープ音、またはメロディーを停止するときは、[電源] キーや無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

◎ ポケットビープ機能が設定されていない状態で、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けたときは、ビープ音、またはメロディーは鳴らず、呼び出した相手の個別番号と、「」表示の点滅だけになります。

8 そのほかの機能について

■ 呼び出しメロディー機能

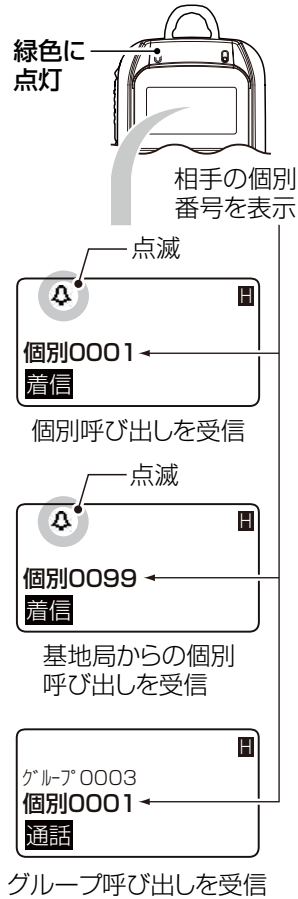
個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、Pベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディー(9種類)に設定できます。

※Pベル機能、ポケットビープ機能のメロディーを変更する場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディーに変更する場合は、詳細設定モードで設定できます。(P9-6)

※呼び出しを受けたとき、メロディーを停止するときは、操作機の[電源]キーや操作機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

★呼出着信音機能とは、個別番号(最大10局)、グループ番号(最大10局)で、異なる呼び出し音が設定できる機能です。



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声が届かないなどして、通話がつづけられない状態になると、「ピンポン」と音が鳴ります。

※受信電波強度通知機能が使用できるのは、エリア拡張システムに設定された操作機で、操作機側の移動機から呼び出しを受けたときなど、送信権が操作機に切り替わったときだけです。

遠隔制御システムでは使用できません。

※「ピンポン」と鳴ったときは、操作機側の移動機が場所を移動してから通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、音(ピンポン)は止まります。

※受信電波強度通知機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、詳細設定モードで設定できます。(P9-8)

■ 着信表示

ユーザーコードや個別呼び出しを受けたとき、操作機側の[送・受]ランプが橙色に点滅します。



[戻る]キーを押すと、点滅が停止します。

※ご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ ショートメッセージ機能

個別呼び出し機能で呼び出しをするとき、あらかじめ設定されたショートメッセージを送信できます。

※ショートメッセージを送信するには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※ショートメッセージの受信だけに使用する場合は、操作機に個別呼び出し機能(☞P6-1)が設定されていれば、受信できます。

◇ショートメッセージの送りかた

下記の1～4の手順で操作します。

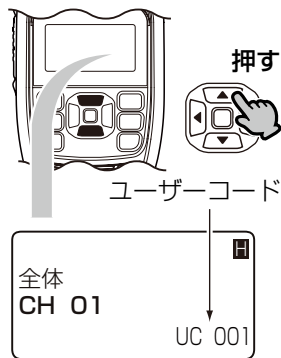
※受信したショートメッセージの確認方法は、5の手順(☞P8-6)で説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

操作機の[▲]/[▼]キーを押して、通話相手と同じ通話チャンネルを選択します。

(表示例:全体呼び出し)

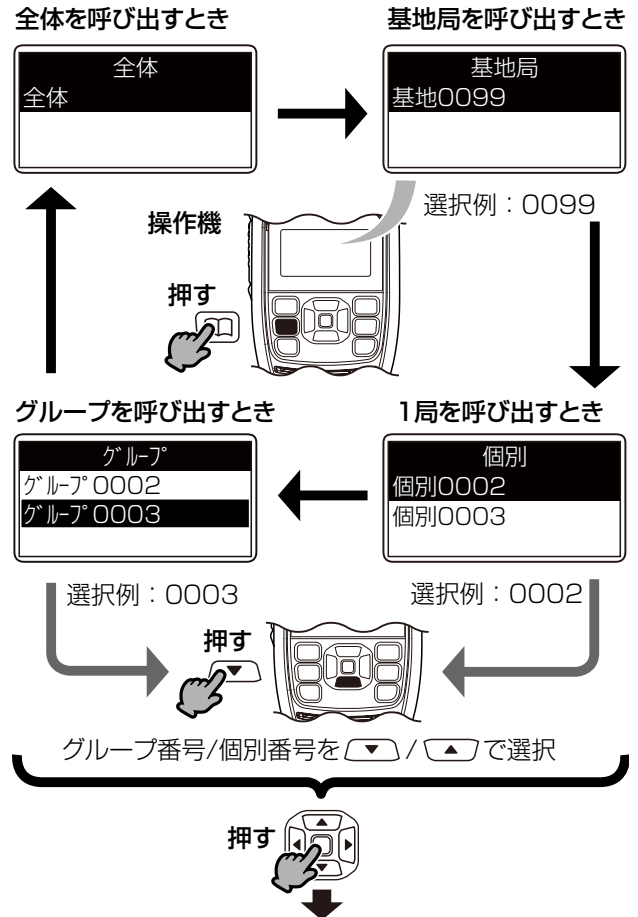
※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。



ユーザーコードが設定された通話チャンネルの選択
(例:CH 01、UC001)

2 全体/基地/個別/グループ番号の選択

①下記の操作で、呼び出す相手を選択します。



②選択されていることを確認します。

- ◎全体を選択した場合
「全体」表示 (例:CH 01)
- ◎基地局を選択した場合
「基地局」表示 (例:基地0099)
- ◎1局(個別)を選択した場合
「個別」表示 (例:個別0002)
- ◎グループ番号を選択した場合
「グループ番号」表示 (例:グループ0003)

8 そのほかの機能について

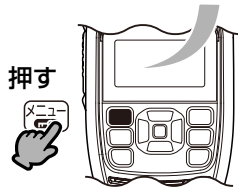
■ ショートメッセージ機能

◇ショートメッセージの送りかた(つづき)

3 メッセージの選択

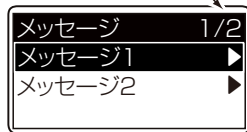
①操作機の[メニュー/Ⓜ-○]キーを短く押します。

- メニュー画面が表示されます。



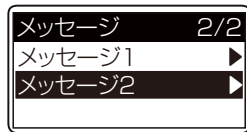
②操作機の[決定]キーを押します。

- 選択できるメッセージの数(例:メッセージ1、メッセージ2)を表示します。

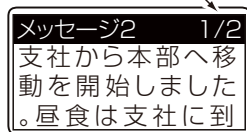


③操作機の[▲]/[▼]キーを押して、送信するメッセージを選択します。

例:メッセージ1が選択された状態



例:メッセージ2が選択された状態



例:送信する内容
1/2ページ目

登録されたメッセージ(例:メッセージ2)の全文章を確認するときは、[▲]/[▼]キーを押します。

4 ショートメッセージを送る

【ご注意】

[送・受]ランプが緑色に点灯しているときは、音声が聞こえなくても、ほかの無線局が通話していることがあります。この状態で送信すると、混信してほかの無線局の妨害になりますので、送信しないでください。

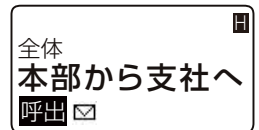
※[送・受]ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

消灯を確認

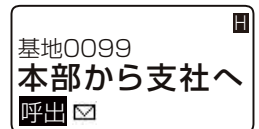


メッセージの内容が表示された状態で、操作機の[PTT] (送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

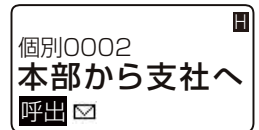
- [PTT] (送信)スイッチを押しているあいだは、[送・受]ランプが赤色に点灯します。同時に、メッセージが通話相手に送信されます。



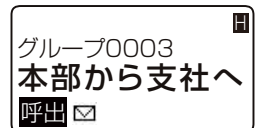
全体呼び出しで送信



基地局呼び出しで送信



個別呼び出しで送信



グループ呼び出しで送信

【メッセージを送りなおすには】

手順3の操作に戻って、メッセージを選択してから、呼び出しをしてください。

8 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

◇ショートメッセージの送りかた(つづき)

5 受信したショートメッセージの確認

①ショートメッセージ付きの個別呼び出しを受信すると、メッセージの先頭部分を、右図のように、操作機に表示します。



全体
本部から支社へ
着信

全体呼び出しを受信

点滅
個別0099
本部から支社へ
着信

基地局からの個別呼び出しを受信

点滅
個別0002
本部から支社へ
着信

個別呼び出しを受信

グループ0003
本部から支社へ
着信

グループ呼び出しを受信

②操作機の[◀]/[▶]キーを押すと、メッセージの内容を確認できます。

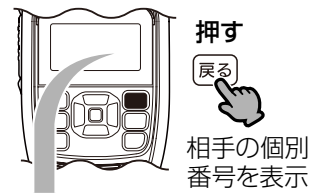


メッセージの確認
(例:個別呼び出しを受信)

③操作機の[戻る]キーを押します。

●呼び出しを受けた相手の個別番号表示に戻ります。

※[戻る]キーを押すまで、応答できません。



全体
CH 01
UC 001

全体への応答

個別0099
CH 01
UC 001

基地局への応答

個別0002
CH 01
UC 001

個別への応答

グループ0003
CH 01
UC 001

グループへの応答



④操作機の[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に応答します。

●[PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、[送・受] ランプが赤色に点灯します。

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号、ショートメッセージや相手の位置情報が記憶されます。

記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

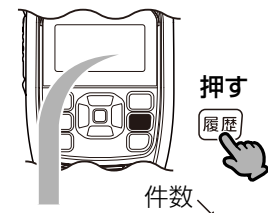
※ 発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

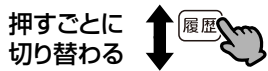
【発着信履歴を使用して、呼び出しをするには】

① 操作機の【履歴】キーを繰り返し押し、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。

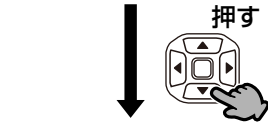
※ 設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



例：個別0001の着信履歴が選択された状態



例：個別0003の発信履歴が選択された状態



例：個別0099の着信履歴が選択された状態



例：個別呼び出し

② 発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、操作機の【▲】/【▼】キーを押して選択します。

※ 上から順に最新の履歴として記憶されています。

③ 呼び出す相手の履歴を選択した状態で、操作機の【PTT】(送信)スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

● 【送・受】ランプが赤色に点灯します。

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

◎ 発信履歴、着信履歴を各10件まで記憶できます。

10件を超えると、古い履歴から削除されます。

◎ 全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

◎ 発信履歴の消去は、設定モードからできます。

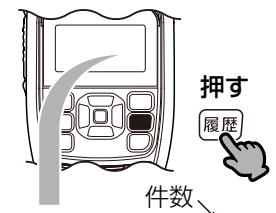
(☞P9-1)

【発着信履歴からショートメッセージを確認するには】

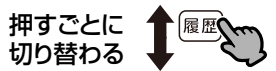
① 操作機の【履歴】キーを繰り返し押し、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。

※ 設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。

※ 発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、操作機の【▲】/【▼】キーを押して選択します。



例：個別0001の着信履歴が選択された状態



例：個別0003の発信履歴が選択された状態



例：個別0001(着信履歴)のショートメッセージ

② 操作機の【決定】キーを押します。

● ショートメッセージが表示されます。

※ 操作機の【PTT】(送信)スイッチを押すと呼び出せます。

※ 履歴に登録されたショートメッセージは、送れません。

【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

設定モードの【発着履歴消去】項目(☞P9-5)から履歴を消去してください。

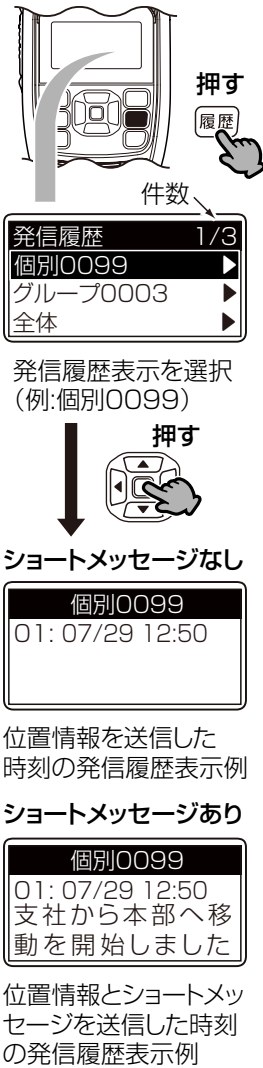
それでも改善しない場合は、全設定を初期化(☞P11-1)してください。

8 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能(つづき)

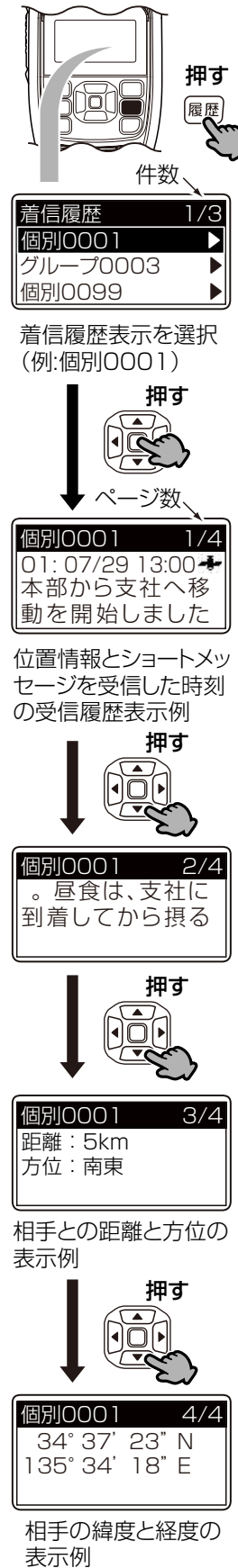
【発信履歴からGPS情報の送信時間を確認するには】

- ①操作機の【履歴】キーを繰り返し押し、「発信履歴」を選択します。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
※発信履歴が2件以上ある場合は、操作機の【▲】/【▼】キーを押して選択します。
- ②操作機の【決定】キーを押します。
●GPS情報を送信した時刻が表示されます。
※GPS衛星からの信号を測位できない状態で送信したときは、時刻は履歴として表示できません。
※ショートメッセージと併せて送信したときの履歴では、その内容も確認できます。



【着信履歴からGPS情報を確認するには】

- ①操作機の【履歴】キーを繰り返し押し、「着信履歴」を選択します。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
※着信履歴が2件以上ある場合は、操作機の【▲】/【▼】キーを押して選択します。
- ②操作機の【決定】キーを押します。
●GPS情報を受信した時刻が表示されます。
※ショートメッセージと併せて受信したときの履歴では、その内容も表示されます。
- ③GPS情報が表示されるまで、操作機の【▼】キーを繰り返し押し続けます。



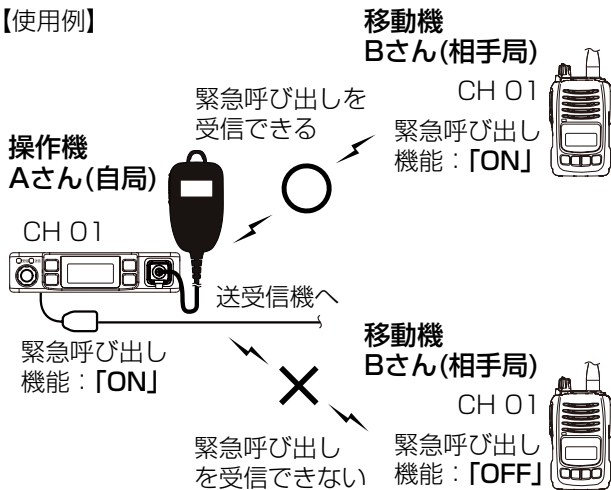
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※ 緊急呼び出し機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



移動機の図は、IC-D60(弊社製無線機)を例にしています。

⚠警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

適切な音量になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

◎ 呼び出し用IDが一致する相手局を一斉に呼び出すことができます。

工場出荷時、すべての無線機に同じ呼び出し用IDが設定されていますので、変更が必要な場合は、お買い上げの販売店に、ご依頼ください。

◎ 緊急呼び出し機能は、送信側と受信側の無線機に設定されているとき、使用できる機能です。

送信側と受信側の両方に設定されていないときは、緊急呼び出しの送信や受信、応答ができません。

◎ 個別呼び出し機能(☞P6-1)が設定されていない無線機から、個別呼び出し機能が設定されている無線機へ緊急呼び出しはできません。

緊急呼び出し機能を使用するときは、送信側と受信側の両方に個別呼び出し機能を設定してください。

◎ 緊急呼び出しをする無線機には、付属のコマンドマイク(HM-206)、または防水スピーカマイク(別売品: HM-204)を無線機に接続する必要があります。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

◎ 音量が最小に設定されている場合

◎ 警告音を鳴らさない設定がされている場合

◎ 電波状況の悪化により電波が届かない場合

【マイク分岐BOXを使用しているときは】

マイク分岐BOX(別売品: OPC-2330)に接続しているマイクロホン(別売品: HM-204)からも緊急呼び出しができます。

動作について詳しくは、本書10-5ページ～10-6ページをご覧ください。

8 そのほかの機能について

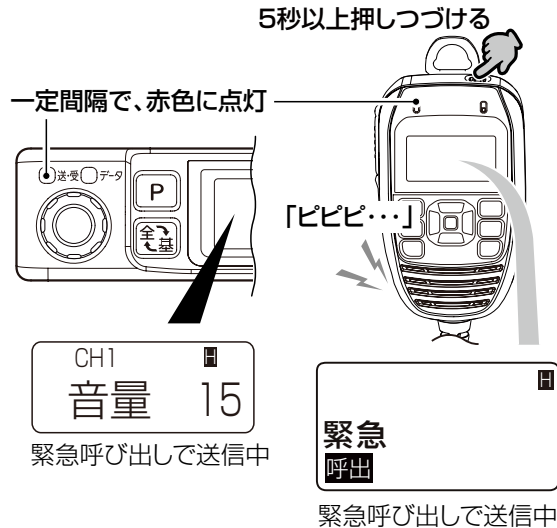
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)つづき 【緊急呼び出しのしかた】

付属のコマンドマイク(HM-206)の【緊急呼び出し】キーを長く(5秒以上)押すと、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しをします。

※緊急呼び出しに使用する通話チャンネルが、あらかじめ指定されていない場合は、緊急呼び出しの前に、緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択してください。

①【緊急】と表示されるまで、操作機に接続された付属のコマンドマイクの【緊急呼び出し】キーを長く(5秒以上)押し続けます。

- 【緊急】表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに【送・受】ランプが赤色に点灯します。



②その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

- 応答があると、「呼出」表示が「通話」表示に変わり、【送・受】ランプが緑色に点灯します。

個別呼び出し機能使用時は、応答した相手の個別番号も併せて表示されます。

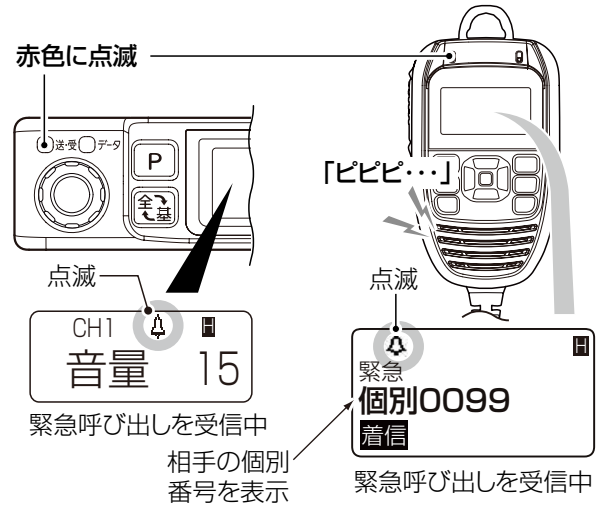
※応答がない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

①警告音が「ピピピ…」と鳴って、【送・受】ランプが赤色に点滅します。
また、「緊急」と「相手局番号」を表示します。



②操作機の【PTT】(送信)スイッチを押して、応答します。

- 応答すると、「着信」表示が「通話」表示に変わり、警告音が停止します。

※応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

③通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。

8 そのほかの機能について

■ GPS機能

操作機として使用するIC-D6005N(本製品)に付属のコマンドマイク(HM-206)、および移動機(IC-D6005)に別売品のコマンドマイク(HM-206 #02)を接続しているとき、自局の位置情報(緯度/経度)をコマンドマイクに表示したり、自局の位置情報を移動局に送信したりできる機能です。


移動局の位置情報を受信したときは、自局から移動局までの距離と、自局から見た移動局の方位を表示できます。

※GPS機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

なお、送受信機側に設定しても、測位されません。

また、移動機(IC-D6005)についても、GPS機能の設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。


※操作機の「」が点滅から点灯に変わると、受信(測位)完了です。

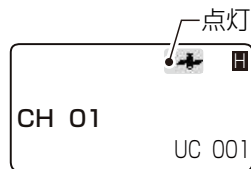
点滅している状態では、位置情報の表示や送信、発着信履歴使用時の時刻表示ができません。

※本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を測位できない場合があります。

※位置管理システムなどのマッピングには対応していません。

【自局の位置情報を確認するには】

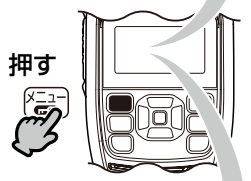
①操作機側で、「」が点灯(測位が完了)していることを確認します。



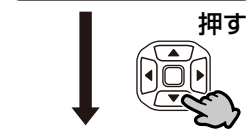
測位完了時の表示

②操作機の【メニュー/☰】キーを短く押します。

- メニュー画面が表示されます。



③操作機の【▲】/【▼】キーを押して、GPS情報を選択します。



GPS情報を選択

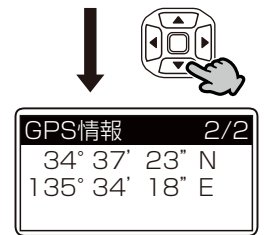
④操作機の【決定】キーを押します。

- 測位日時と追尾衛星数(表示例 SAT:05)を表示します。



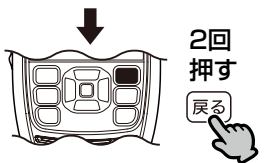
測位日時と追尾衛星数(SAT)の表示例

⑤操作機の【▼】キーを押すと、緯度と経度を表示します。



緯度と経度の表示例

⑥待ち受け時の表示に戻すときは、【戻る】キーを2回押します。

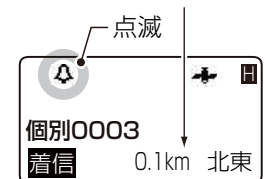


【移動局から位置情報を受信したときの表示】

GPS機能が設定されているとき、移動局(IC-D6005)の位置情報を受信すると、自局と移動局までの距離と自局から見た移動局の方位を表示します。

※発着信履歴機能が設定されているときは、着信履歴から、移動局の位置情報を確認できます。(P8-8)

例:移動局が自局より北東へ0.1km先にいることを表示



移動局から位置情報付きで、個別呼び出しを受けたときの表示例

8 そのほかの機能について

■ GPS機能(つづき)

【自局の位置情報を送信するには】

✚が点灯している状態で、**[PTT]**(送信)スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって、通話相手に呼びかけます。

- **[PTT]**(送信)スイッチを押しているあいだは、**[送・受]**ランプが赤色に点灯します。同時に、自局情報が通話相手に送信されます。



自局の位置情報付きで、個別呼び出しをしたときの表示例

【送信時のご注意】

[PTT](送信)スイッチを押すと、位置情報を送出後に音声を送信されます。

「ピピッ」と鳴ってから、通話相手に呼びかけてください。

■ ノイズキャンセル機能

周囲の雑音を抑えて、雑音の少ない音声にして通話する機能です。

※ ノイズキャンセル機能をご使用になるには、操作機側の無線機に設定が必要です。

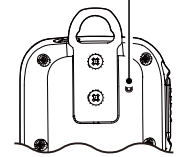
内線通話機能と併せてご使用の場合は、送受信機側の無線機にも設定することで、双方の音声に対して、有効になります。

設定は、詳細設定モードで設定できます。(P9-10)

※ ノイズキャンセル機能の使用には、付属のコマンドマイク(HM-206)を無線機に接続する必要があります。

※ 右図のマイクロホンから入った周囲のノイズを使用して、前面部のマイクロホンから入った周囲のノイズを打ち消すことで、送信音声に含まれるノイズ(特に低音域)を軽減します。

ノイズキャンセル機能用マイクロホン



HM-206(後面)

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

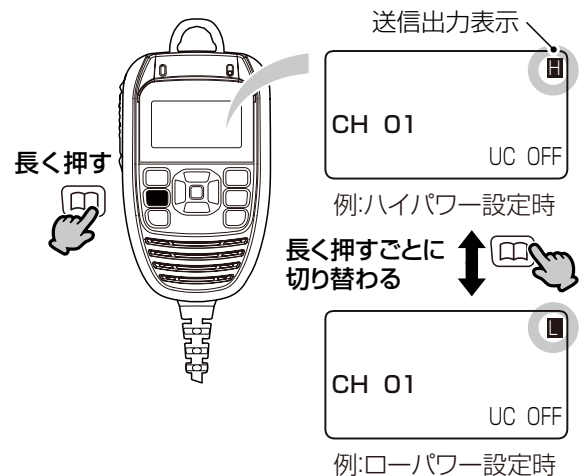
※ 送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、詳細設定モードで設定できます。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、**[個別番号帳]**キーを長く(約1秒)押します。

※ 長く(約1秒)押すごとに、ハイパワー(5W:**[H]**)とローパワー(1W:**[L]**)が切り替わります。



「設定モード」、または「詳細設定モード」から、本製品の各機能を変更する方法について説明します。

■ 設定一覧

付属のコマンドマイク(HM-206)に表示される設定項目について説明しています。

設定モード、詳細設定モードによって、設定できる項目が異なります。

以下の一覧表を参考に、必要な項目を設定してください。

□欄は、設定モードでも変更できる設定項目です。

機能名称	初期値	参照
Pベル ^{*2}	OFF	P9-3
ポケットビープ	OFF	P9-3
秘話	OFF	P9-3
秘話キー ^{*8}	00001	P9-3
送信出力切替	HIGH	P9-4
マイクゲイン	0dB	P9-4
ユーザーコード	チャンネル共通	P9-4
チャンネル毎UC ^{*1}	OFF	P9-4
個別呼出	OFF	P9-4
自局番号 ^{*2}	0001	P9-4
基地局番号 ^{*2}	0099	P9-4
グループ設定 ^{*2}	グループ0001	P9-5
終話後表示 ^{*2}	全体	P9-5
優先個別番号 ^{*2*4}	0099	P9-5
発着履歴消去 ^{*2}	しない	P9-5
呼出着信音 ^{*2*7}	0001	P9-6
P-CH機能	OFF	P9-6
P-CH ^{*3}	呼出	P9-6
Pキー短押し	ホーム	P9-7
Pキー長押し	モニタ	P9-7
スキャン/サーチCH ^{*5}	CH 01	P9-7
スキャン停止時間 ^{*6}	10秒	P9-7
スキャン再開時間 ^{*6}	5秒	P9-8
通話後動作 ^{*6}	スキャン解除	P9-8
キーロック時音量	無効	P9-8
スピーカー出力	自動	P9-8
CH音声案内	ON	P9-8
受信電強通知	OFF	P9-8
妨害波アラーム	OFF	P9-9
マイクコントラスト	12	P9-9
本体コントラスト	12	P9-9
バックライト	常時点灯	P9-9
マイク表示輝度	4	P9-9
本体表示輝度	4	P9-9
録音再生機能	OFF	P9-9
録音履歴消去 ^{*9}	しない	P9-9
ノイズキャンセル	OFF	P9-10
ユーザーリセット	しない	P9-10
ネットワーク機能	ON	P9-10
対向機再起動 ^{*10}	しない	P9-10

*1 ユーザーコードの設定が「チャンネル毎」の場合だけ表示されます。

*2 個別呼び出しの設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*3 プライベートチャンネル機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

*4 終話後表示の設定が「優先個別」の場合だけ表示されます。

*5 [P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しの設定が「M-CHスキャン」、または「E-CHサーチ」のとき、設定できます。

*6 [P](プログラム)キー短押し、または[P](プログラム)キー長押しの設定が「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」のとき、設定できます。

*7 ポケットビープの設定が「OFF」のとき、設定できます。

*8 秘話が「キー ID1」～「キー ID20」のとき、表示されます。

*9 録音再生機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

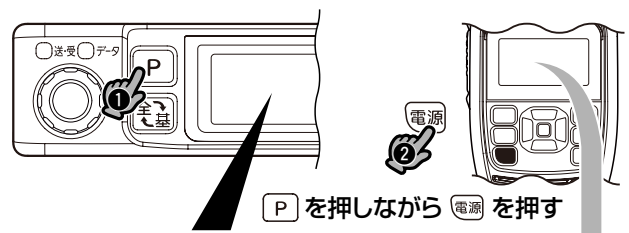
*10 ネットワーク機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

■ 設定モードに移行するには

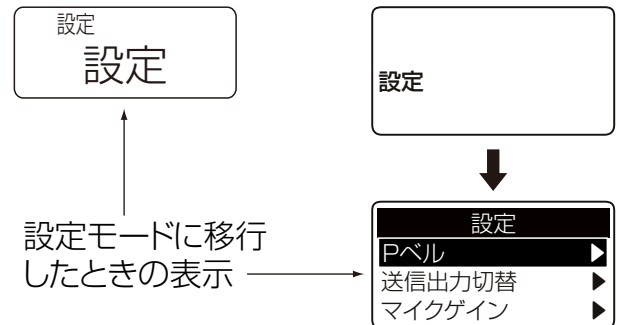
【操作のしかた】

① 本製品の電源を切ります。

② [P](プログラム)キーを押しながら、[電源]キーを押しつづけます。



P を押しながら 電源 を押す



③ 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

● 設定項目が表示されます。

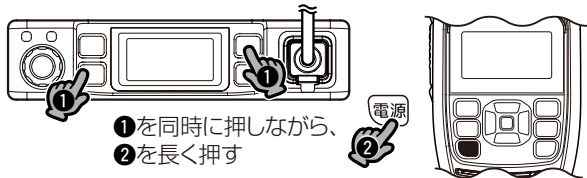
※設定モードを解除するまで通話できません。

④ 「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。

■ 詳細設定モードに移行するには

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切ります。
- ② [全⇄基]キーと[機能/Ⓜ]キーを同時に押しながら、[電源]キーを押しつづけます。
- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。



※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

- ④ 「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。



■ 設定のしかた

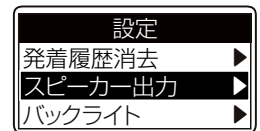
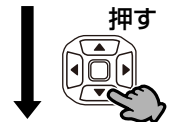
設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

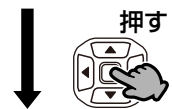
- ① [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、設定項目(例:スピーカー出力)を選択します。



設定モードの表示例



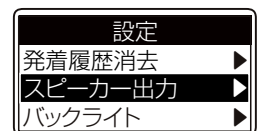
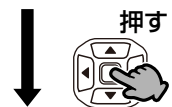
例:スピーカー出力を選択したとき



現在の設定値



変更する設定値を選択
(選択例:全てのSP)



設定値確定後の表示



設定モード解除

- ② [決定]キーを押します。
 - 現在の設定値(例:自動)が表示されます。

- ③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押しして、設定値を選択します。
(例:全てのSP)

- ④ [決定]キーを押します。
 - 設定値が確定されます。
 - ※ ほかの機能も変更するときは、①～④の操作を繰り返します。

- ⑤ 設定モードを解除するときは、[PTT] (送信) スイッチを押します。
 - ※ 設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

9 各種機能の設定

■ 設定項目について

設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。

Pベル (初期設定値:OFF)



Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※[個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- ブザー ON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- メロディ ON : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- ブザー OFF : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

【ブザーON、メロディON、ブザーOFFに設定した場合】

◎表示部には、「P」が表示されます。

◎ポケットビープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「ブザーOFF」に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットビープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

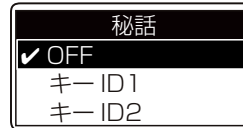
ポケットビープ (初期設定値:OFF)



ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF : ポケットビープを使用しない
 - 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
 - 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
 - 1分毎 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
 - 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
 - ピー : 「ピー」と音が1回鳴る
 - ピピピ : 「ピピピ」と音が1回鳴る
 - メロディ : あらかじめ設定されたメロディー音が鳴る
- ※グループ、または全体呼び出しを受けたときは、ポケットビープが「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

秘話 (初期設定値:OFF)



通話を他者に聞かれないようにする秘話機能を設定します。

【秘話IDの設定】

- OFF : 秘話機能を使用しない
- キーID1～キーID20 : 秘話機能を使用し、秘話キーが設定された[キーID1～キーID20]のメモリーを選択する

【秘話キーの設定】

- 【個別番号帳】キーを押すと、「秘話キー」が表示されます。
- 選択範囲:00001～32767

※呼出用チャンネル(15チャンネル)では、秘話通信が禁止されています。

呼出用チャンネルを選択した場合、秘話機能が一時的に「OFF」になります。

※[戻る]キーを押すと、もとの画面に戻ります。

【ご注意】

送信側と受信側に異なるIDを設定していても、それぞれの[キーID1～キーID20]にメモリーされている秘話キーが同じ場合は音声聞こえます。

9 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。

送信出力切替 (初期設定値: HIGH)

送信出力切替
LOW
<input checked="" type="checkbox"/> HIGH
チャンネル毎

送信出力を設定します。

- LOW : 送信出力を1Wに設定する
- HIGH : 送信出力を5Wに設定する
- チャンネル毎 : チャンネルごとに送信出力を設定する
※チャンネルごとに送信出力を設定するには、お買い上げの販売店にご依頼ください。

マイクゲイン (初期設定値: 0dB)

マイクゲイン
-6dB
-3dB
<input checked="" type="checkbox"/> 0dB

マイクロホンの感度を設定します。

- 選択範囲: -15dB(低)~0dB(中)~9dB(高)
※3dB単位で選択できます。
- ※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
- また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

ユーザーコード (初期設定値: チャンネル共通)

ユーザーコード
チャンネル毎
<input checked="" type="checkbox"/> チャンネル共通

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- チャンネル毎 : 通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する
- チャンネル共通 : 通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する

チャンネル毎UC (初期設定値: OFF)

チャンネル毎UC	
CH 01	OFF
CH 02	OFF
CH 03	OFF

※この項目はユーザーコードの設定が「チャンネル毎」の場合だけ表示されます。

チャンネルごとのユーザーコードを設定します。

- CHの選択範囲: 01~30
※15チャンネルはユーザーコードを設定できません。
- UCの選択範囲: OFF、001~511

個別呼出 (初期設定値: OFF)

個別呼出
<input checked="" type="checkbox"/> OFF
ON

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

自局番号 (初期設定値: 個別0001)

自局番号
個別0000
<input checked="" type="checkbox"/> 個別0001
個別0002

この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲: 個別0001~個別0245
- ※ 個別9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

基地局番号 (初期設定値: 個別0099)

基地局番号
<input checked="" type="checkbox"/> 個別0099
個別0100
個別0101

個別呼び出しに使用する基地局の個別番号を個別番号設定の内容から設定します。

- 選択範囲: 個別0001~個別0245
- ※ 個別9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別呼出]を「ON」に設定したとき表示されます。

9 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。




グループ設定 (初期設定値:グループ0001)

グループ設定
<input type="radio"/> グループ0001
<input type="radio"/> グループ0002
<input type="radio"/> グループ0003

個別呼び出しに使用するグループの参加/不参加を設定します。

- 選択範囲: グループ0001～グループ0010
- ※ グループ9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

グループを選択して[決定]キーを押すごとに「グループID」、「メンバーとなるグループID」の切り替えができます。

- 「」なし: グループID
このグループ番号の呼び出しは受けません。
(このグループ番号を選択して、呼び出すことはできます。)
- 「」あり: メンバーとなるグループID
このグループ番号を呼び出すことも、呼び出しを受けることもできます。
- ※ 「メンバーとなるグループID」選択時、表示部に「」が点灯します。

終話後表示 (初期設定値:全体)

終話後表示
<input type="radio"/> 通話前表示
<input type="radio"/> 通話中表示
<input checked="" type="radio"/> 全体

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部の表示をどの状態にするかを設定します。

- 通話前表示: 通話前に表示していた内容を、再度表示する
- 通話中表示: 通話中に表示していた内容を、そのまま継続して表示する
- 全体 : 全体呼び出し表示[全体]を表示する
- 基地局 : [基地局番号]で表示された個別番号を表示する
- 個別 : [個別番号]を表示する
- グループ : [グループ番号]を表示する
- 着信履歴 : 着信履歴を表示する
- 発信履歴 : 発信履歴を表示する
- 優先個別 : [優先個別番号]で表示された個別番号を表示する
- ホーム : 通話チャンネルを表示する
- ※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。

優先個別番号 (初期設定値:個別0099)

優先個別番号
<input checked="" type="checkbox"/> 個別0099
<input type="checkbox"/> 個別0100
<input type="checkbox"/> 個別0101

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

通話が終わった(待ち受け状態)とき、表示部に表示する個別番号を設定します。

- 選択範囲 : 個別0001～個別0245
: グループ0001～グループ0010
- ※ 9999まで設定したい場合は、販売店にご依頼ください。
- ※ [個別呼出]を「ON」に設定し、終話後表示を「優先個別」に設定したときに表示されます。

発着信履歴消去 (初期設定値:しない)

発着履歴消去
<input type="radio"/> しない
<input type="radio"/> 消去する

自局番号の設定/基地局番号の設定/グループ設定を変更したとき、この機能で発着信履歴を削除してください。

- しない : 何もしない
- 消去する : 履歴を削除する
- ※ [個別呼出]を「ON」に設定したときに表示されます。
- ※ 「消去する」を選択後、[PTT](送信)スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、発着信履歴を消去して「しない」に切り替わります。

9 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。

呼出着信音 (初期設定値:OFF)

個別番号、グループ番号ごとに、異なる呼び出し音のパターンを設定します。

- OFF : 使用しない
- 30回 : 「トルルル」と音が30回連続で鳴る
- 3回 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴る
- 1分 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
- 連続 : 「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
- ピー : 「ピー」と音が1回鳴る
- ピピピ : 「ピピピ」と音が1回鳴る
- Xロディ1～9 : 設定した番号のメロディー音が鳴る

※ [ポケットビープ]を「OFF」に設定したときに表示されます。

※ 全体呼び出しを受けたときは、呼び出し音が「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

【設定のしかた】

① [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、個別番号、またはグループ番号を選択します。

- 選択範囲:
個別0001～個別0010、
グ0001～グ0010

② [決定]キーを短く押します。

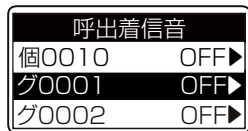
- 「OFF」(初期設定値)が表示されます。

③ [▲]/[▼]キーを繰り返し押し、呼出着信音を選択します。

④ [決定]キーを短く押します。
※ほかの番号も設定するときは、①～④を繰り返します。

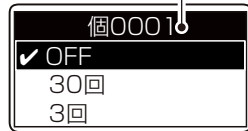


相手局番号(選択例)



グループ番号(選択例)

↓
選択した番号の表示



着信音(設定例)

P-CH機能

(初期設定値:OFF)



プライベートチャンネル機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

※ 「ON」に設定すると、[P] (プログラム)キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。

P-CH

(初期設定値:呼出CH)



通話チャンネルからプライベートチャンネルにする番号を設定します。

- 選択範囲: CH01～CH14、呼出CH、CH16～CH30、S1～S5*

※ [P-CH機能](プライベートチャンネル機能)を「ON」に設定したときに表示されます。

※ ネットワーク機能使用時は、「呼出CH」に設定しても切り替わりません。

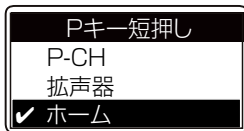
★ 上空用チャンネル(S1～S5)の設定は、販売店にご依頼ください。

9 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

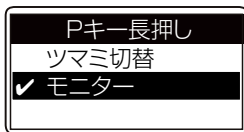
設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。

Pキー短押し (初期設定値: ホーム)



[P] (プログラム) キーを短く押したときの動作を設定します。

Pキー長押し (初期設定値: モニター)



[P] (プログラム) キーを長く押したときの動作を設定します。

- 無効 : 動作しない
- P-CHスキャン* : プライベートチャンネルスキャンの開始
- M-CHスキャン* : メモリーチャンネルスキャンの開始
- E-CHサーチ* : 空きチャンネルサーチの開始
- 音声案内 : 通話チャンネル番号の読み上げ
- 周波数表示 : 通話チャンネル番号表示(名称)と周波数表示を切り替える
- 送信権切替 : 操作機に設定された無線機に設定すると、操作機に接続されたマイクロホンの[PTT] (送信) スイッチを押しつづけたとき、電波が送信される無線機(操作機/送受信機)を切り替える
- 内線通話 : 内線通話の動作開始/停止を切り替える
- 動作切替 : 無線機を「操作機」として使用するか、「送受信機」として使用するかを切り替える
- P-CH : 通話チャンネル番号表示とプライベートチャンネル番号表示を切り替える
- 拡声器* : 拡声器の動作開始/停止を切り替える
- ホーム : 通話チャンネル表示に戻す
- ツマミ切替 : コマンドマイク(HM-206)を無線機に接続しているとき、無線機本体のツマミの動作(音量/通話チャンネル)を切り替える
- モニター : 押ししているあいだけモニター機能(☞P8-1)が動作する([P] (プログラム) キー長押しに対して設定できます。)

- ★ ネットワーク機能の設定が「ON」のときは動作しません。
- ※ 「P-CHスキャン」選択時、プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。
- ※ 「M-CHスキャン」選択時、設定したチャンネルが1件だけの場合、そのチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。

スキャン/サーチCH (初期設定値: CH01)

メモリーチャンネルスキャンの対象にする通話チャンネルを設定します。

※ [P] (プログラム) キー短押し、または[P] (プログラム) キー長押しを、「M-CHスキャン」、または「E-CHサーチ」に設定したときに表示されます。

【設定のしかた】

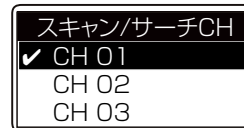
① [▲]/[▼] キーを繰り返し押しして、スキャンの対象にする通話チャンネル番号を選択します。

- 選択範囲: 01～14、呼出、16～30、S1～S5*



② [決定] キーを短く押すごとに、指定と解除が切り替わります。

- 指定すると、「✓」が点灯します。



※ 上空用チャンネル(S1～S5)の設定は、販売店にご依頼ください。

※ ネットワーク機能の設定が「ON」のときは動作しません。

スキャン停止時間 (初期設定値: 10秒)



電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、またはメモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

- 選択範囲: 2秒～20秒(2秒単位)、停止保持
- ※ [P] (プログラム) キー短押し、または[P] (プログラム) キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。
- ※ 「停止保持」を選択したときは、受信信号がなくなるまで、スキャンを停止します。
- ※ 受信信号がなくなると、「スキャン再開時間」の設定にしたがって、スキャンを再開します。
- ※ ネットワーク機能の設定が「ON」のときは動作しません。

9 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。

スキャン再開時間 (初期設定値:5秒)

スキャン再開時間
3秒
4秒
<input checked="" type="checkbox"/> 5秒

スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

- 即時 : すぐにスキャンを再開
- 1秒～5秒 : 設定時間(秒)後にスキャンを再開
- 再開しない : スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンを再開しない

※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

※ ネットワーク機能の設定が「ON」のときは動作しません。

通話後動作 (初期設定値:スキャン解除)

通話後動作
スキャン再開
<input checked="" type="checkbox"/> スキャン解除

スキャン中、[PTT] (送信) スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

- スキャン再開 : 数秒後、スキャンを再開
 - スキャン解除 : スキャンを解除
- ※ [P] (プログラム) キー短押し、または [P] (プログラム) キー長押しを、「P-CHスキャン」、または「M-CHスキャン」に設定したときに表示されます。

※ ネットワーク機能の設定が「ON」のときは動作しません。

キーロック時音量 (初期設定値:無効)

キーロック時音量
<input checked="" type="checkbox"/> 無効
有効

ロック機能動作中の音量操作についての設定です。

- 無効 : 音量操作を無効にする
- 有効 : 音量操作を有効にする

【設定変更時のご注意】

ロック機能が「ON」で電源を切り、詳細設定モードに移行して、「キーロック時の音量操作」の設定を変更したときだけ、ロック機能が「OFF」になります。

スピーカー出力 (初期設定値:自動)

スピーカー出力
<input checked="" type="checkbox"/> 自動
全てのSP
SPマイクのみ

外部スピーカーを接続したとき、スピーカーマイク(弊社製)から受信音を出力するかしないかの設定です。

- 自動 : 外部スピーカーだけに音を出す
- 全てのSP : 外部スピーカーとスピーカーマイクの両方に音を出す
- SPマイクのみ : スピーカーマイクだけに音を出す

【ご注意】

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。

※ 別売品(※10章)のスピーカーをご使用ください。

チャンネル番号音声案内 (初期設定値:ON)

CH音声案内
OFF
<input checked="" type="checkbox"/> ON

通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。

- OFF : 使用しない
 - ON : 電源を入れたときや、チャンネルを変更したときに、選択されたチャンネル番号を読み上げる
- ※ 「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15) 選択時は、「呼び出し」と読み上げます。

※ 上空用チャンネル(CH S1～CH S5) 選択時は、チャンネル番号の前に、「上空」を付けて読み上げます。

受信電波強度通知機能 (初期設定値:OFF)

受信電強通知
<input checked="" type="checkbox"/> OFF
ON

受信電波強度通知機能の設定です。

- OFF : 警告音で通知しない
- ON : 通話がつづけられない状態まで受信信号の強度が弱くなると、ピープ音(ピンポン)が鳴る

9 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。

妨害波アラーム (初期設定値:OFF)

妨害波アラーム
<input checked="" type="checkbox"/> OFF
ON

妨害波アラームの設定です。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※下記の電波を受信したとき、妨害波とみなして、警告音(ブツ)が鳴ります。

警告音は、妨害波を受信しているあいだ1秒間隔で鳴りつづけます。

◎自局とユーザーコードが異なる電波を受信したとき

◎自局と秘話機能ON/OFFの設定が異なる電波を受信したとき

マイクコントラスト (初期設定値:12)

マイクコントラスト
<input checked="" type="checkbox"/> 12
13
14

本体コントラスト (初期設定値:12)

本体コントラスト
<input checked="" type="checkbox"/> 12
13
14

表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。

- 選択範囲:0(淡)～25(濃)

※【個別番号帳】キーを長く押すと、初期設定値に戻ります。

バックライト (初期設定値:常時点灯)

バックライト
常時消灯
操作時点灯
<input checked="" type="checkbox"/> 常時点灯

送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

- 常時消灯 :点灯しない
- 操作時点灯:送信以外の操作をすると、照明が約5秒間点灯する
- 常時点灯 :電源を切るまで消灯しない

マイク表示輝度 (初期設定値:4)

マイク表示輝度
<input checked="" type="checkbox"/> 4
5
6

本体表示輝度 (初期設定値:4)

本体表示輝度
<input checked="" type="checkbox"/> 4
5
6

表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲:1～7

録音再生機能 (初期設定値:OFF)

録音再生機能
<input checked="" type="checkbox"/> OFF
ON

自局宛の通話を録音、および再生する機能を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※ネットワーク機能の設定が「ON」のときは動作しません。

録音履歴消去 (初期設定値:しない)

録音履歴消去
しない
消去する

録音された通話履歴を消去します。

- しない :何もしない
- 消去する :履歴を削除する

※【録音再生機能】を「ON」に設定したときに表示されます。

※「消去する」を選択後、【PTT】(送信)スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、録音履歴を消去して「しない」に切り替わります。

※ネットワーク機能の設定が「ON」のときは動作しません。

9 各種機能の設定

■ 設定項目について(つづき)

設定方法については、本書P9-1～P9-2をご覧ください。

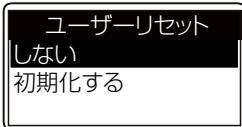
ノイズキャンセル (初期設定値:OFF)



送信音声に含まれるノイズ(特に低音域)を軽減する機能を設定します。

- OFF : 使用しない
- ON : 使用する

ユーザーリセット (初期設定値:しない)



すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- しない : [PTT](送信)スイッチを押しても、初期化しない
- 初期化する: [PTT](送信)スイッチを押すと、初期化する

※「初期化する」を選択後、[PTT](送信)スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「しない」に切り替わります。

【ご注意】

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

ネットワーク機能 (初期設定値:ON)



IPネットワークに接続して使用するか、しないかを設定します。

- ON : 使用する
- OFF : 使用しない

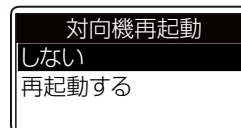
【ご注意】

※対向する無線機にもこの機能を設定してください。

※ネットワーク機能が「ON」に設定されているときは、以下の機能と併用できませんので、ご注意ください。

- 「拡声器機能」
- 「録音再生機能」
- 「各スキャン機能」
- 「データ通信」
- 「空きチャンネルサーチ機能」
- 「呼出CH(CH15)」

対向機再起動 (初期設定値:しない)



IPネットワークで接続された本製品(操作機、または送受信機)の再起動と同時に、対向する別の本製品(操作機、または送受信機)も同時に再起動する操作を設定します。

- しない : 対向機は再起動しない
- 再起動する : 対向機も再起動する

※「ネットワーク機能」を、「ON」に設定したときに表示されます。

10 別売品とその使いかた

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★: IP54の防塵/防水性能があります。

上記、防塵、防水性能は、「IP表記について」(P111)をご覧ください。

外部スピーカー

- SP-30 :外部スピーカー(20W/4Ω)
※ケーブル長:約2.8m
- SP-35 :外部スピーカー(5W/4Ω)
※ケーブル長:約2m

外部電源

- PS-230A :卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

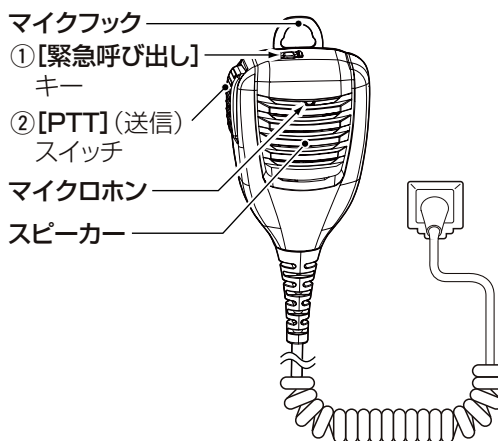
マイクロホン関係

- AM-5 :アーム型マイクロホン(磁石付き基台)
- SM-28 :デスクトップマイクロホン
- HM-204★ :防水スピーカーマイク
※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-204の防塵/防水性能を維持できません。
- HM-206 #02★ :コマンドマイク
※OPC-647を使用したときは、本製品、およびHM-206(#02を含む)の防塵/防水性能を維持できません。
- OPC-647 :マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
※AM-5、SM-28、HM-204、HM-206(#02を含む)、OPC-2330のいずれかでお使いになれます。
※最大2本まで接続してお使いになれます。
- OPC-2330 :マイク分岐BOX
※接続できるマイクロホンは、HM-204です。

■ HM-204(防水スピーカーマイク)

緊急呼び出し機能に対応した防水スピーカーマイクです。

本製品に接続することで、IP54の防塵/防水性能になります。



①〈緊急呼び出し〉キー

緊急呼び出し機能(※P8-9)が設定されている場合、長く(5秒以上)押しと、緊急呼び出しを開始します。

②【PTT】(送信)スイッチ

押し続けているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態になります。

10 別売品とその使いかた

■ AM-5(アーム型マイクロホン)

エレクトレット形コンデンサーマイクロホンです。
※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せて
ご用意ください。

底面部に強力な磁石を使用しています。

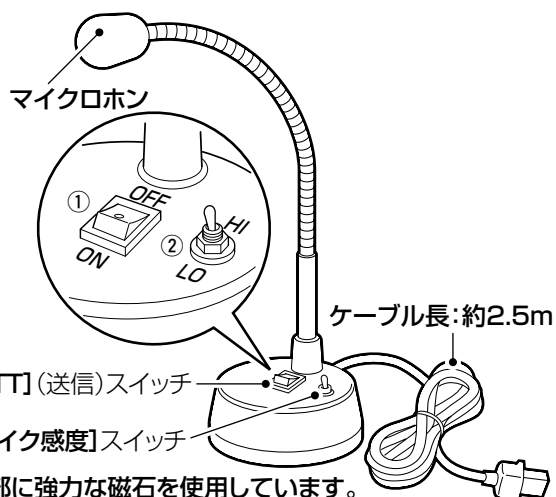
△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面部を近づけたり、当てたりしないでください。

電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。



① [PTT] (送信) スイッチ

② [マイク感度] スイッチ

① [PTT] (送信) スイッチ

「ON」にすると送信、「OFF」にすると待ち受け状態になります。

② [マイク感度] スイッチ

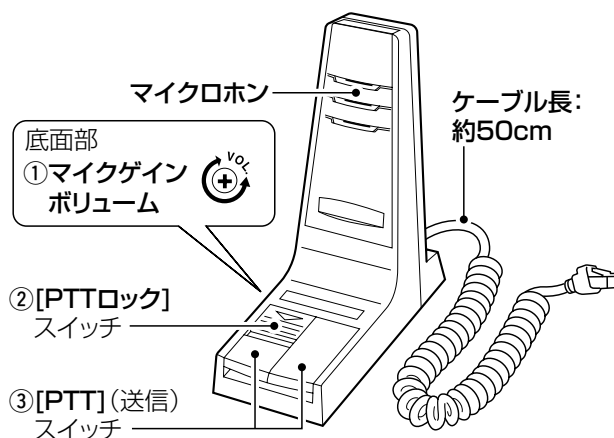
「HI」にすると感度が高くなり、「LO」にすると低くなります。

※マイクロホンとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

※外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35)と併せて
ご用意ください。



① マイクゲインボリューム

マイクロホンとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクロホンの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

② [PTTロック] スイッチ

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT] (送信) スイッチ (③) がロックされ、ハンズフリーで送信できます。

ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT] (送信) スイッチ

押し続けている間は送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

10 別売品とその使いかた

■ OPC-2330(マイク分岐BOX)

下図のように接続すると、無線機(操作機)以外の場所から、増設したマイクロホン(HM-204)で通話できます。

※最初に【PTT】(送信)スイッチを押したマイクロホンから音声が送信されます。

※送信中に、別のマイクロホンから送信できません。

マイク1とマイク2の【PTT】(送信)スイッチが両方とも押されたときは、「ブー」と大きな音が鳴ります。

このときに鳴る音量を変更されたいときは、お買い上げの販売店にご依頼ください。

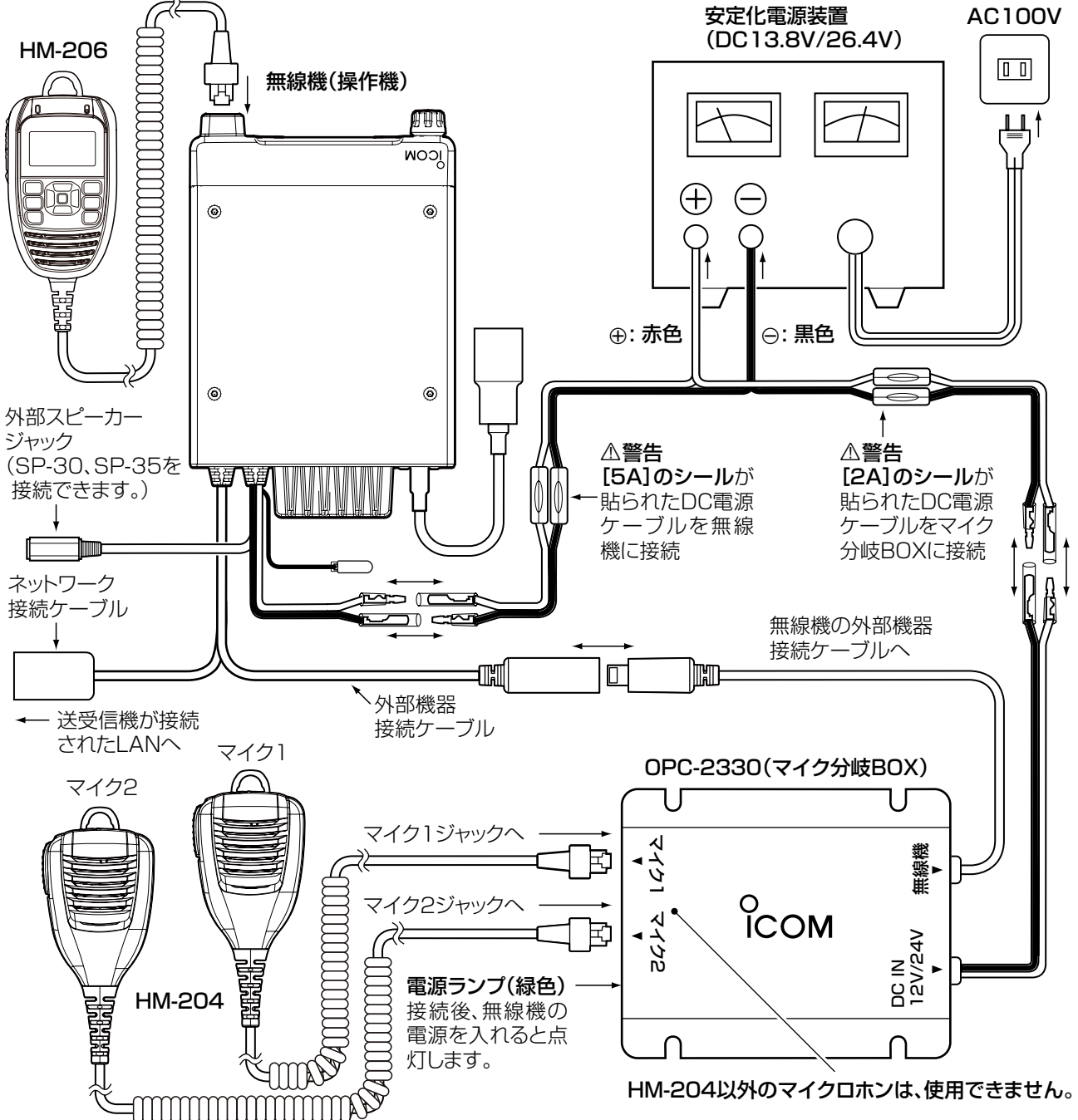
※DC電源ケーブルのヒューズの交換については、本書11-1ページで説明しています。

【電源接続時のご注意】

無線機とOPC-2330は、同じ電源に接続してください。無線機を弊社製の卓上電源装置(PS-230A)、OPC-2330を市販の安定化電源装置のように、別々の電源に接続すると、ノイズが出てOPC-2330が誤動作することがあります。

※別々の電源となる場合は、各電源の⊖(マイナス)端子同士をケーブルで接続してください。

接続図



10 別売品とその使いかた

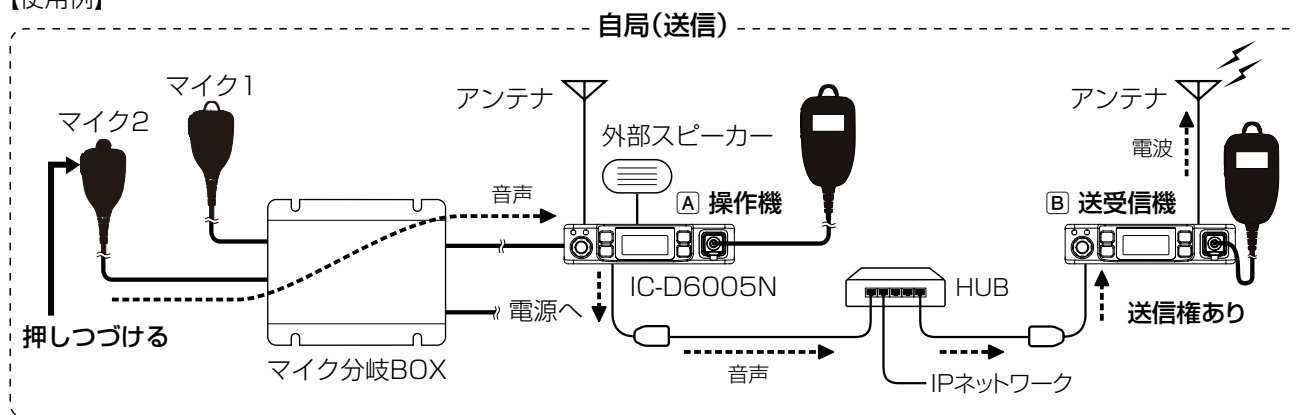
■ OPC-2330(マイク分岐BOX)つづき

【呼び出しをしたときの動作】

【A】操作機側に接続されたマイクロホンの中で、最初に【PTT】(送信)スイッチを押しつづけたマイクロホン(例:マイク2)の音声【B】送受信機から送信されます。

送信中は、【A】操作機側に接続された別のマイクロホンを使用できません。

【使用例】

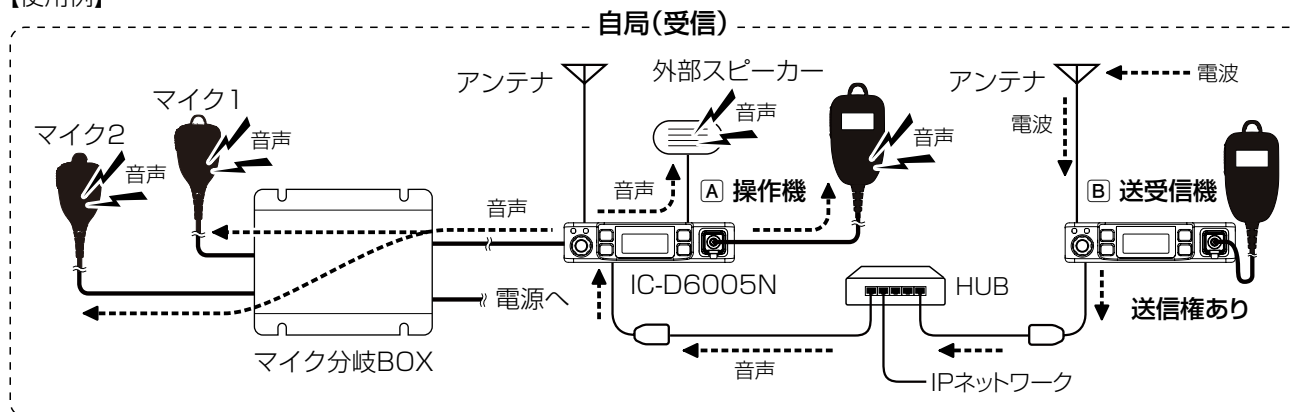


【呼び出しを受けたときの動作】

相手局から受信した音声は、設定モードの【スピーカー出力】項目(☞P9-8)を「全てのSP」に変更すると、【A】操作機とマイク分岐BOXに接続されたマイクロホンのスピーカーから出力されます。

【A】操作機側に接続されたマイクロホンの中で、最初に【PTT】(送信)スイッチを押しつづけたマイクロホンから応答できます。

【使用例】



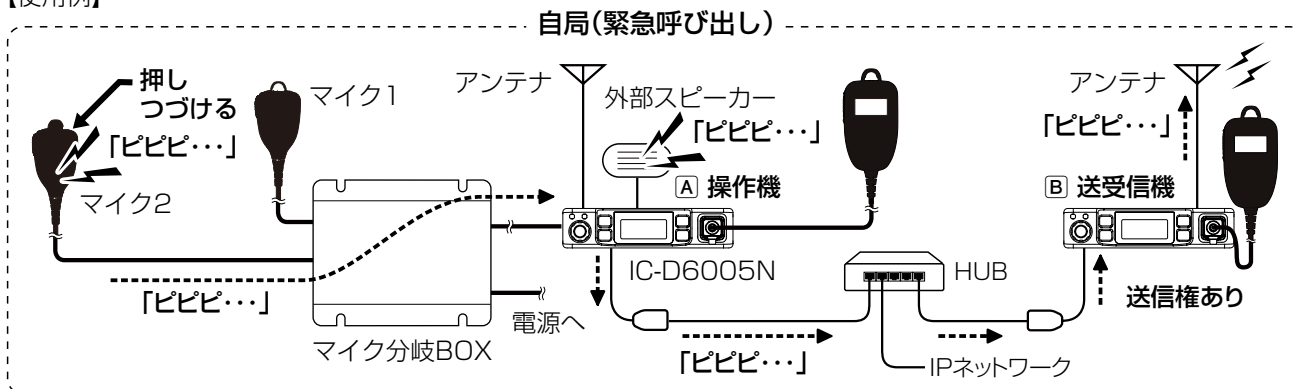
10 別売品とその使いかた

■ OPC-2330(マイク分岐BOX)つづき

【緊急呼び出しをしたときの動作】

〔A〕操作機〕、またはマイク分岐BOXに接続されたマイクロホン(例:マイク2)の【緊急呼び出し】キーを長く(5秒以上)押しつづけると、緊急呼び出しを開始します。

【使用例】

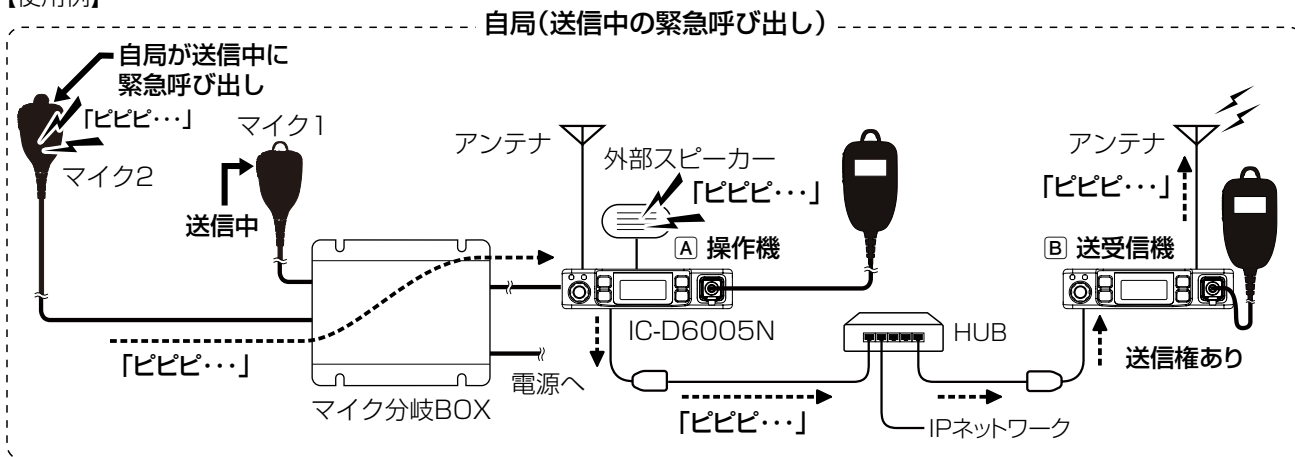


【送信中に、緊急呼び出しをしたときの動作】

自局(例:マイク1)が送信中に、〔A〕操作機〕側に接続された別のマイクロホン(例:マイク2)の【緊急呼び出し】キーを長く(5秒以上)押しつづけると、緊急呼び出しに切り替わります。

※緊急呼び出しに切り替わっても、〔A〕操作機〕側に接続された別のマイクロホン(例:マイク1)を使用して、送信はできますが、【緊急呼び出し】キーが押されているあいだだけ、マイクロホン(例:マイク1)の感度が低下します。

【使用例】



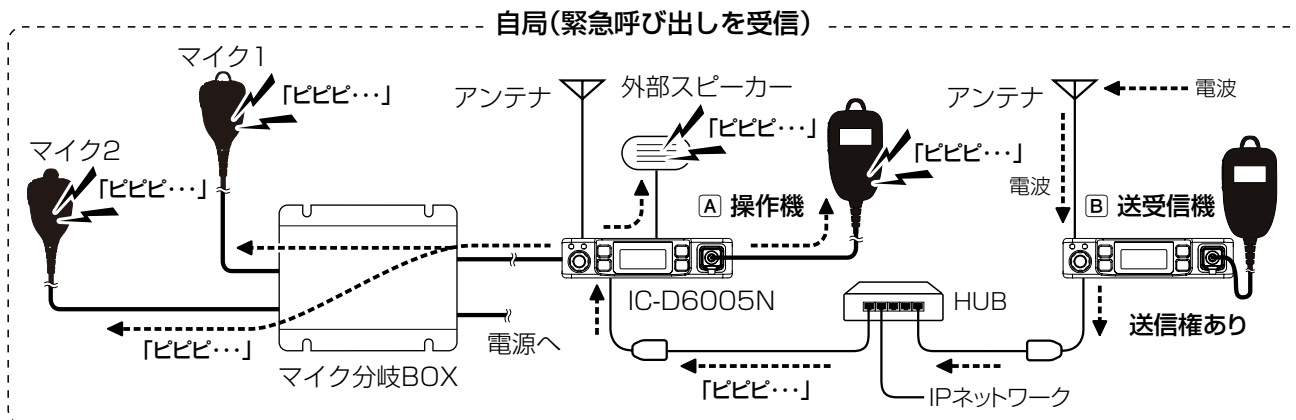
10 別売品とその使いかた

■ OPC-2330(マイク分岐BOX)つづき

【緊急呼び出しを受けたときの動作】

緊急呼び出しを受けると、[A 操作機]側のすべてのスピーカーから警告音が出力されます。

[A 操作機]側に接続されたマイクロホンの中で、最初に[PTT](送信)スイッチを押しつづけたマイクロホンから応答できます。



11 保守について

■ 日常の保守と点検について

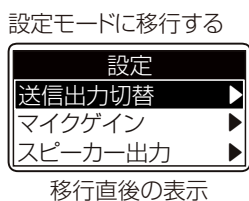
- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、無線機本体のツマミ、またはコマンドマイクの[◀]/[▶]キーを押して、表示される音量レベルを確認してください。

■ 初期状態に戻す(リセットする)には

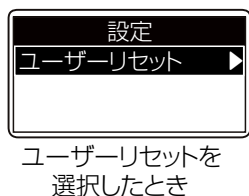
下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

【操作のしかた】

- ①設定モードに移行します。
(P9-1)

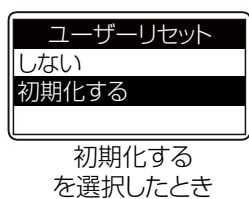


- ②[▲]/[▼]キーを繰り返し押し、「ユーザーリセット」を選択します。



- ③[決定]キーを押します。

- ④[▲]/[▼]キーを繰り返し押し、「初期化する」を選択します。



- ⑤[決定]キーを押します。

- ⑥[PTT](送信)スイッチを短く押します。

- 設定値がリセットされ、無線機が再起動します。



【ご注意】

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズが使用されています。

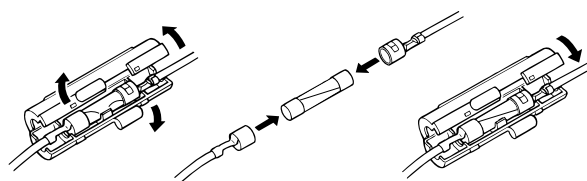
マイク分岐BOX(別売品:OPC-2330)をご使用の場合は、無線機のDC電源ケーブルとヒューズが異なりますので、間違えないようにご注意ください。

◎無線機に使用するヒューズ :125V/5A

◎マイク分岐BOXに使用するヒューズ :125V/2A

※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。

※下図のヒューズカバーには、「5A」、「2A」のシールが貼られています。



■ 移動機として使用できる無線機について

(2015年7月現在)

下記の弊社製無線機をお使いください。

◎ IC-D50* ◎ IC-D60

◎ IC-D5005* ◎ IC-D6005

★本製品の緊急呼び出し機能(エマージェンシー)を使用する場合は、相互使用できません。

11 保守について

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(☎P11-3)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	安定化電源装置、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P11-1
「  回線エラー」と表示される	操作機、または送受信機の電源が入っていない	電源が入っていることを確認する	P3-1
	操作機、または送受信機を設定モードにしている	電源を入れなおして、設定モードを解除する	P2-1
	操作機と送受信機がIPネットワークと接続されていない	LANケーブルの接続、およびHUBなどのネットワーク機器との接続を確認する	—
	IPネットワークの障害	ネットワーク管理者に確認する	—
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P2-1
	外部スピーカーの設定が正しくない	設定モードで、外部スピーカーの設定を確認する	P9-8
	マイクロホン(HM-204、HM-206)、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	マイクロホン、または外部スピーカーが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
移動局と通話できない	通話チャンネルが合っていない	移動局と同じ通話チャンネルに合わせる	P3-1 P4-4
	ユーザーコードが合っていない	移動局と同じユーザーコードを設定する	P5-1
	移動局が秘話機能を使用していない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる	お買い上げ時、秘話IDと秘話キーが設定されている場合、秘話IDと秘話キーが異なる移動局とは通話できません	P7-1
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	移動局の個別番号、またはグループ番号を確認する	P6-4
移動局から応答がない	移動機が本製品(操作機、または送受信機)の通話エリア外に出ている	移動機が本製品(操作機、または送受信機)の通話エリア内に戻るまで、しばらく時間をあけてから、呼び出してみる	—
	移動局が不在、または電源を切っている	移動局に戻る、または電源を入れるまで、しばらく時間をあけてから、呼び出してみる	—
移動機の電波が中継できない	ユーザーコードが設定されていない通話チャンネルを選択している	ユーザーコードが選択された通話チャンネルに変更する	P4-2
「キーロック中」、または「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	コマンドマイク(HM-206)の[メニュー/☎]キーを長く押し続けてロック機能を解除する	P8-1
モニター機能が使用できない	[P](プログラム)キーの動作が、モニター機能(☎P8-1)以外の操作に割り当てられている	詳細設定モードで、[P](プログラム)キーの動作を変更する	P9-7
本書で説明されている機能が使用できない	お買い上げ時、あらかじめ設定されていない機能である	使用できる機能については、お買い上げの販売店にお問い合わせください	—

11 保守について

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな?と思ったら」(P11-2)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

**お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)**

**◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)**

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:http://www.icom.co.jp/

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

高品質がテーマです。

